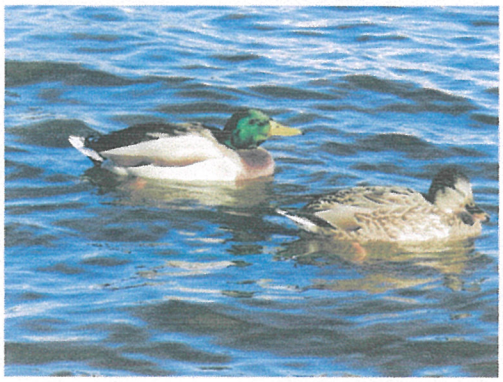
北杜市環境保全基金活用事業

八ヶ岳南麓の野鳥 2019

野鳥センサス調査のまとめ



2008-2018年　清里湖　マガモ



2009-2018年　井富ため池　ベニマシコ



2008-2018年
八ヶ岳南麓
ルリビタキ

野鳥の数が少なくなっているのではないかと言われていますが、実際はどうなのでしょうか？これまで八ヶ岳南麓における野鳥の調査データはほとんどありませんでした。

野鳥たちの生息状況や生息環境を把握するために、八ヶ岳野鳥クラブでは2008年から清里湖周辺で11年間、井富ため池周辺で10年間、毎月1回の調査、観察を実施しました。その調査結果をこの冊子にまとめてみました。データをもとに、鳥類目録として、それぞれの野鳥の動向をまとめる予定です。調査は今後も継続します。

野鳥たちも安心して暮らせる自然豊かな環境を次世代に残したいものです。

Today Birds , Tomorrow Men

野鳥たちが暮らせる環境は人間にとっても大切です。

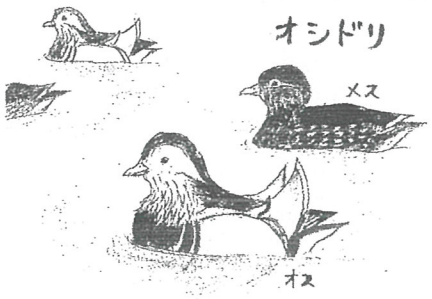
2019年1月　八ヶ岳野鳥クラブ

友香の自然スケッチ

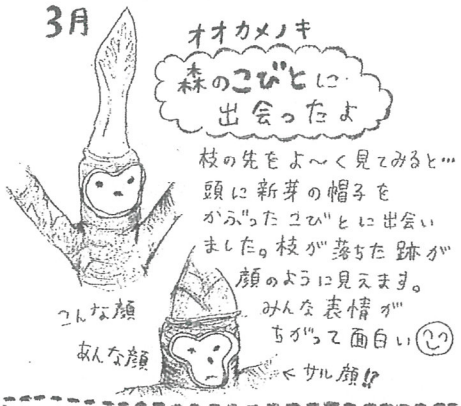
清里だより

3月

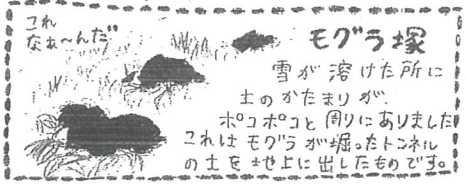
山梨県の清里にある大門ダムに行きました。
湖面を見渡すと なんと オシドリが約300羽もいました!!!



こんなに多くのオシドリを見たのは初めてでした。
1月に来た時は、湖が全面凍結していたのですが、もうすっかり溶けて、カモたちも春を感じたカモ



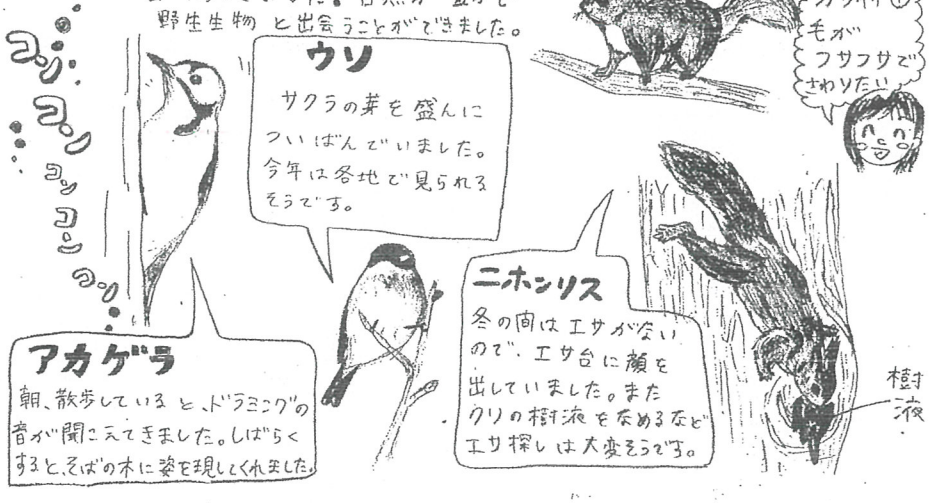
枝の先をよ～く見てみると…
頭に新芽の帽子をかぶったこびとに出会いました。枝が落ちた跡が顔のように見えます。
みんな表情がちがって面白い(^^)



友香の自然スケッチ

八ヶ岳の自然

八ヶ岳へ行ってきました！自然が豊かで野生生物と出会うことができました。



この冊子の内容、野鳥の動向など、お気づきの点がございましたら、下記へご連絡ください。この冊子はコピーフリーです。興味のある方にご紹介していただけましたら、うれしいです。

問い合わせ・連絡先　　八ヶ岳野鳥クラブ代表　竹内　時男
メール　tokio818t@yahoo.co.jp

2019年1月吉日発行　頒価500円

清里湖の野鳥2019

野鳥センサス調査　2008-2018年の記録



ミヤマホオジロ

2008年から清里湖周辺で11年間、毎月1回の調査、観察を行いました。その結果、95種の野鳥が記録されました。これは山梨全県で確認された266種のおよそ三分の一にあたります。

11年間のデータをこの冊子にまとめてみました。清里湖における野鳥たちの動向が少し分かりました。

今、調査地の付近では、中部横断道路の建設計画があります。工事中や、建設後は野鳥たちへの影響があると思われます。野鳥たちが、いつまでも安心して暮らせる自然豊かな環境を次世代に残したいものです。

Today Birds , Tomorrow Men

野鳥たちが暮らせる環境は人間にとっても大切です。

2019年1月　八ヶ岳野鳥クラブ

1. 調査コースと調査方法

調査地は山梨県西北部、北杜市高根町にあり、大門川を堰き止めて造られた清里湖の周辺である。調査コースは、ダムサイトの駐車場を起点として、清里湖北岸の舗装道路を歩く。前半の約 1km は湖岸から離れ高台の道を進む。両側は斜面林や藪になっている。後半の約 1km は湖岸沿いの道となる。清里湖は例年 1 月中旬から 2 月下旬までの期間は全面結氷することが多い。

調査方法は日本野鳥の会神奈川支部で実施している定線センサスに準じて行った。毎月 1 回、雨天日を避け、午前中に終了するように実施した。図 1 に示す約 2km の調査コースを歩き、見聞きした鳥の種類、個体数及び行動を記録した。通常のセンサス調査はコースの両側 25m の範囲であるが、ここでは見聞きできた範囲の鳥を記録した。調査は同じコースを往復する。復路では、記録の重複を避けるために往路で記録のなかった種類だけを付け加えた。調査には双眼鏡及び望遠鏡を使用した。

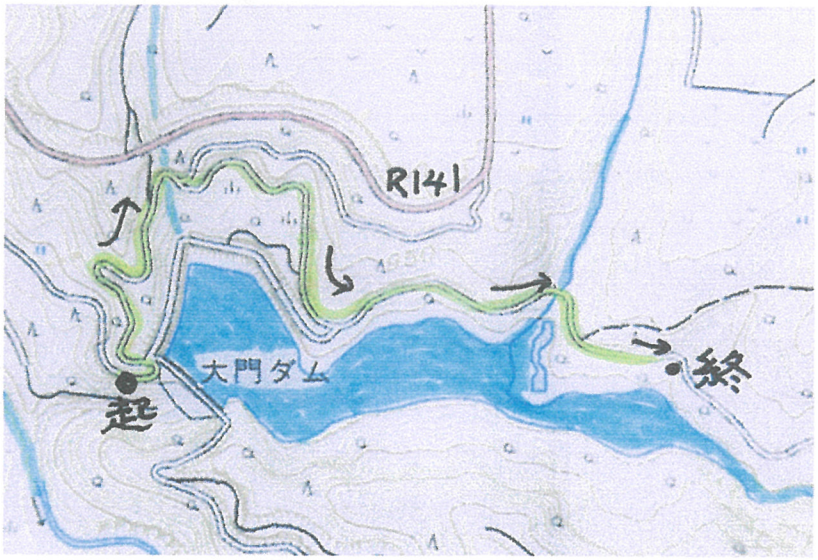


図 1 調査コース図

2. 調査結果の概要

2008 年から 2018 年まで、11 年間毎月 1 回、計 132 回の調査結果を以下にまとめた。

(1) 記録された種類と個体数

11 年間で記録された鳥は 14 目、34 科、95 種、18766 羽であった。記録された種類と総個体数の一覧を表 1 に示した。種類数は日本鳥類目録改第 7 版に記載されている日本の野鳥 633 種のおよそ 15%、山梨県内で記録された 266 種のおよそ 36%にあたる。

データは調査時に記録された数だけで、他の観察時に見られた数を含めると、割合はもっと高くなる。夜行性であるフクロウも調査時間外では観察されている。

表1 記録された種類と個体数

目	科	和名	個体数
キジ目	キジ科	ヤマドリ	2
カモ目	カモ科	オシドリ	4429
		ヨシガモ	1
		ヒドリガモ	281
		アメリカヒドリ	2
		マガモ	3757
		カルガモ	841
		ハシビロガモ	1
		オナガガモ	8
		コガモ	97
		ホシハジロ	45
		キンクロハジロ	79
		カワアイサ	8
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	61
ハト目	ハト科	キジバト	104
		アオバト	1
カツオドリ目	ウ科	カワウ	548
ペリカン目	サギ科	アオサギ	523
		ダイサギ	5
		チュウサギ	1
		コサギ	4
ツル目	クイナ科	バン	1
		オオバン	9
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	1
		ホトトギス	4
		ツツドリ	1
		カッコウ	5
チドリ目	シギ科	クサシギ	1
		イソシギ	1
タカ目	タカ科	ハチクマ	1
		トビ	132
		ハイタカ	1
		オオタカ	7
		サシバ	1
		ノスリ	19
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	1
		カワセミ	22
		ヤマセミ	5
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	157
		アカゲラ	127
		アオゲラ	36
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	2
		ハヤブサ	1
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	46
	モズ科	モズ	24
	カラス科	カケス	195
		ハシボソガラス	85
		ハシブトガラス	111
スズメ目	シジュウカラ科	コガラ	64
		ヤマガラ	119
		ヒガラ	62
		シジュウカラ	613
	ヒバリ科	ヒバリ	3
	ツバメ科	ツバメ	79
		イワツバメ	1226
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	815
	ウグイス科	ウグイス	102
		ヤブサメ	1
	エナガ科	エナガ	249
	ムシクイ科	センダイムシクイ	20
	メジロ科	メジロ	262
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	39
	ミソサザイ科	ミソサザイ	1
	カワガラス科	カワガラス	8
	ヒタキ科	トラツグミ	3
		クロツグミ	9
		シロハラ	16
		ツグミ	77
		コルリ	1
		ルリビタキ	1
		ジョウビタキ	94
		コサメビタキ	2
		キビタキ	37
		オオルリ	24
	イワヒバリ科	イワヒバリ	9
		カヤクグリ	237
	スズメ科	スズメ	56
	セキレイ科	キセキレイ	110
		ハクセキレイ	164
		セグロセキレイ	97
	アトリ科	アトリ	29
		カワラヒワ	588
		マヒワ	4
		ベニマシコ	18
		オオマシコ	2
		ウソ	5
		シメ	4
		イカル	71
	ホオジロ科	ホオジロ	668
		カシラダカ	695
		ミヤマホオジロ	24
		アオジ	49
		オオジュリン	2
キジ目	キジ科	コジュケイ	3
スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ	210
14目	34科	95種	18766羽

赤字　外来種

(2) 季節区分

留鳥が最も多く、冬鳥、夏鳥、旅鳥の順であった。調査地内に湖があり、冬期飛来するカモたちも多く、冬鳥の割合も高い。

季節の区分は清里湖におけるものであり、日本全体や他の地方とは異なる場合がある。複数の区分にあてはまる鳥類もあるが、ここでは主な区分を一つ選び、一覧を表 3 に示した。

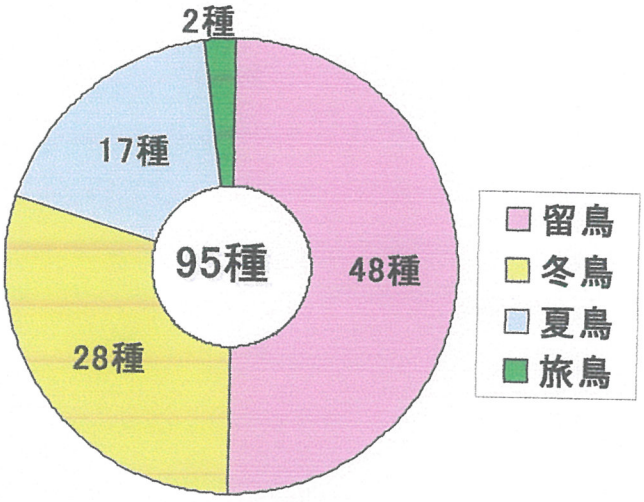


図2 季節区分

(3) 出現率

個体数とは関係なく、観察時にその種が出現した月数の割合が出現率である。表 2 に上位 20 種を示した。ヒヨドリは 95%の出現率で、ほぼ毎回出会えたことになる。夏鳥や冬鳥は年間を通しては出現しないので、一年中見られる留鳥が上位を占めている。逆に、132 回のうち、1 回だけ記録された野鳥も 22 種ある。

表 2 出現率（上位 20 種）

順	種　名	出現率 %	順	種　名	出現率 %
1	ヒヨドリ	95	10	ハクセキレイ	61
2	シジュウカラ	90	12	アカゲラ	59
3	ホオジロ	87	13	アオサギ	58
4	ガビチョウ	79	14	ハシブトガラス	57
5	カルガモ	75	15	マガモ	55
6	コゲラ	73	16	ヤマガラ	52
7	カワラヒワ	72	17	キジバト	48
8	トビ	67	17	キセキレイ	48
9	カワウ	64	17	カケス	48
10	オシドリ	62	20	エナガ	47

(4) 優占度

その種が総個体数の中で占める割合を種別優占度として、表 1 の個体数の上位 20 種を図 3 に示した。集団で行動することが多い水鳥が多くを占めている。オシドリとマガモの上位 2 種だけで 8186 羽と総個体数の約 44%を占めている。また、カシラダカ、ホオジロ、カワラヒワなど、群れで行動する鳥も多くを占めている。逆に、1 羽だけの記録にとどまった鳥も 18 種ある。

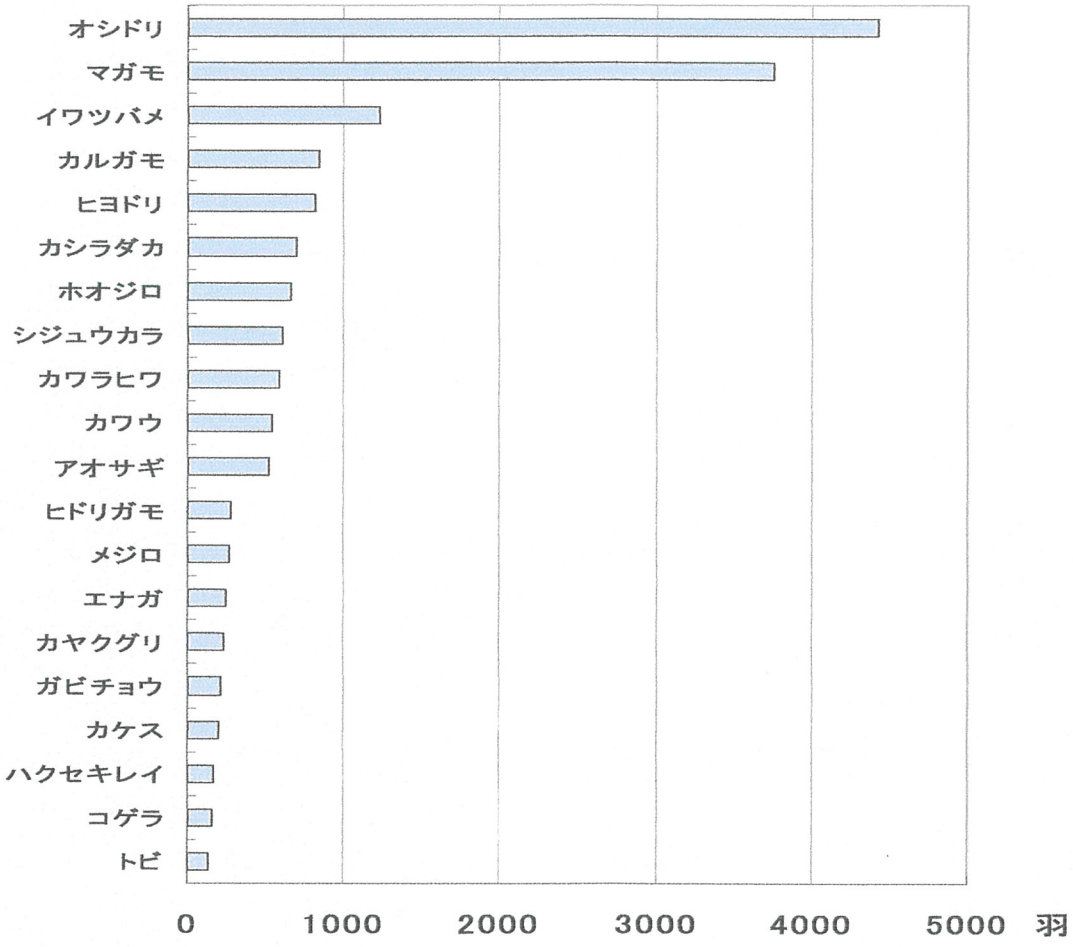


図3 優占度（上位20種）

コラム1



清里湖で一番多く記録されたのはオシドリでした。この調査で最も多く見られたのは 2011 年 11 月 17 日の 364 羽です。警戒心の強い鳥で 100m の距離があっても飛び立ってしまうことがあります。群れで行動することによって、1 羽が危険を察知すると一斉に飛び、身を守っているのです。調査時以外では 600 羽余のオシドリが観察された日がありました。

(5) 生息環境別の鳥相

記録された 95 種を山野の鳥と水辺の鳥に分け、種類数の比率と個体数の比率を調べた。それぞれ図 4-1、図 4-2 に示した。山野の鳥は 70 種　8035 羽、水辺の鳥は 25 種 10731 羽であった。

調査地内には清里湖や流れ込む沢があり、水辺の環境に恵まれている。カモたちの飛来も多い。水辺の鳥の種類数は少ないが、群れで行動することも多く、個体数は山野の鳥より多く記録された。湖を囲む斜面は樹林や藪となっていて、山野の鳥たちも暮らしやすい環境にある。

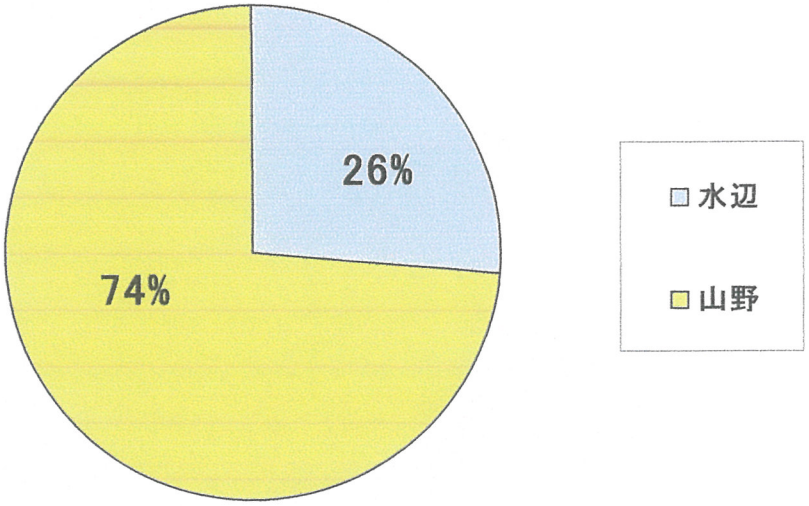


図4-1 環境別の種類数比率

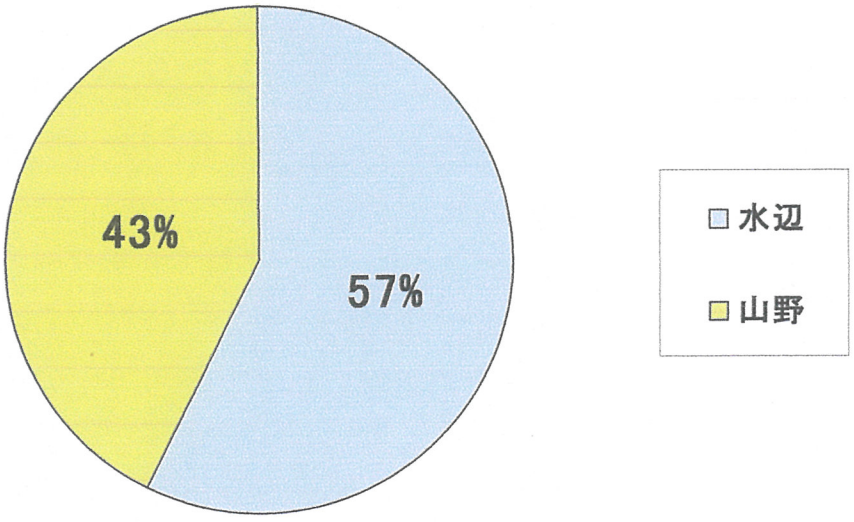


図4-2 環境別の個体数比率

(6) 月別の記録

表3 月別の記録（野鳥ごよみ）

100羽以上　50～99羽　R:留鳥　S:夏鳥　W:冬鳥　T:旅鳥

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	季節区分
	平均種類数	21.9	20.5	20.5	22.4	21.8	21.2	20.2	18.4	18.3	21.6	21.6	20.5	248.7	
	種類数	54	53	50	50	48	47	46	42	46	43	47	49	95	
	個体数	2806	2330	1706	1055	863	804	1033	739	821	1716	2446	2447	18766	
4	ヤマドリ											2		2	R
24	オシドリ	596	739	432	216	1	1	33	38	89	727	1037	520	4429	W
27	ヨシガモ										1			1	W
28	ヒドリガモ	46	50	39	5					5	47	69	20	281	W
29	アメリカヒドリ				2									2	W
30	マガモ	964	704	563	100	2		1	6	9	53	608	747	3757	W
32	カルガモ	203	45	61	28	35	32	54	50	79	61	94	99	841	R
34	ハシビロガモ										1			1	W
35	オナガガモ				1						7			8	W
38	コガモ	75	2				2	2			5	6	5	97	W
42	ホシハジロ	10	8										27	45	W
46	キンクロハジロ	11	18	3	10	3						10	24	79	W
59	カワアイサ	2	5										1	8	W
62	カイツブリ	3	1	6	6	4	3	2	6	6	10	8	6	61	R
74	キジバト	4	6	1	9	8	12	7	12	16	14	10	5	104	R
78	アオバト							1						1	R
127	カワウ	2	7	47	64	65	53	94	54	94	45	11	12	548	R
144	アオサギ			1	9	29	36	74	115	152	97	10		523	R
146	ダイサギ			1				1	2	1				5	R
147	チュウサギ									1				1	S
148	コサギ		1						1	2				4	R
174	バン											1		1	R
175	オオバン	2										6	1	9	R
184	ジュウイチ							1						1	S
185	ホトトギス					2	2							4	S
187	ツツドリ					1								1	S
188	カッコウ					2	2			1				5	S
239	クサシギ								1					1	T
244	イソシギ									1				1	R
340	ハチクマ								1					1	S
342	トビ	13	10	12	10	16	11	16	13	12	7	4	8	132	R
355	ハイタカ												1	1	R
356	オオタカ	1	1	2	1	1				1				7	R
357	サシバ						1							1	S
358	ノスリ	3	2	7	2	1	1	2					1	19	R
378	アカショウビン						1							1	S
383	カワセミ	1					1	3	4	5	2	2	4	22	R
385	ヤマセミ					1		2	1		1			5	R
390	コゲラ	16	21	18	17	8	13	9	7	9	10	9	20	157	R
393	アカゲラ	5	11	5	7	6	10	9	25	17	21	5	6	127	R
397	アオゲラ	1	3	1	6	7	5		1	5	6	1		36	R
402	チョウゲンボウ				2									2	R
407	ハヤブサ										1			1	W
412	サンショウクイ			1		12	14	5	13	1				46	S
420	モズ	5	3	1		3	1	1		2	5	2	1	24	R
427	カケス	23	18	15	25	4	5	2	1	7	36	33	26	195	R
435	ハシボソガラス	15	18	2	9	5	6	2	3	8	4	11	2	85	R
436	ハシブトガラス	5	9	13	7	10	8	8	5	10	18	12	6	111	R

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	
441	コガラ	8	3	7	3		1	10	3	6	12	4	7	64	R
442	ヤマガラ	17	14	15	11	4	7	3	5	9	16	10	8	119	R
443	ヒガラ	5	2	10	2	4	6	3	5	12	4	8	1	62	R
445	シジュウカラ	59	65	72	56	38	26	26	24	47	62	49	89	613	R
452	ヒバリ			3										3	R
457	ツバメ				14	6	10	27	18	4				79	S
461	イワツバメ			36	183	313	241	318	112	3	20			1226	S
463	ヒヨドリ	56	29	16	49	80	93	91	70	83	119	57	72	815	R
464	ウグイス	1	1	1	34	20	18	7	3	1	9	3	4	102	R
465	ヤブサメ						1							1	S
466	エナガ	23	37	39	13	12	2	15	8	25	26	25	24	249	R
480	センダイムシクイ				7	5	6	1	1					20	S
485	メジロ	75	1	12	16	8	10	18	10	7	5	64	36	262	R
502	ゴジュウカラ	2	3	4	7	3	3	5	2	1		7	2	39	R
504	ミソサザイ									1				1	R
512	カワガラス	1		1		1			1	3	1			8	R
514	トラツグミ	2	1											3	R
518	クロツグミ					6	2	1						9	S
521	シロハラ	5	7	2									2	16	W
525	ツグミ	27	18	13	1							3	15	77	W
534	コルリ					1								1	T
536	ルリビタキ		1											1	R
540	ジョウビタキ	20	14	4	3					1	8	24	20	94	W
554	コサメビタキ						2							2	S
558	キビタキ				1	17	9	10						37	S
561	オオルリ				3	9	7	5						24	S
564	イワヒバリ	5	3	1										9	W
566	カヤクグリ	49	66	66	3	1						12	40	237	W
569	スズメ		1	5	3	9	5	10	1	3	8	6	5	56	R
573	キセキレイ	4		1	12	10	9	18	19	11	12	5	9	110	R
574	ハクセキレイ	4	9	6	8	4	14	18	30	28	21	14	8	164	R
575	セグロセキレイ	4	4	10	9	13	1	4	3	11	19	11	8	97	R
586	アトリ	13	3		2							6	5	29	W
587	カワラヒワ	90	20	37	20	15	35	35	17	10	126	102	81	588	R
588	マヒワ	3	1											4	W
592	ベニマシコ	7	5	1								2	3	18	W
595	オオマシコ	2												2	W
599	ウソ	2	1	2										5	W
600	シメ		1									2	1	4	W
602	イカル	1	45		2	6	4	3	4	3	3			71	W
610	ホオジロ	89	103	56	33	36	47	54	26	8	44	47	125	668	R
617	カシラダカ	190	172	32								8	293	695	W
618	ミヤマホオジロ	6	3	1	1							2	11	24	W
624	アオジ	13	7	9	3						2	3	12	49	W
628	オオジュリン												2	2	W
外1	コジュケイ				2			1						3	R
外21	ガビチョウ	17	8	13	18	16	25	21	18	11	20	21	22	210	R

(7) 月別変化

表 3 のデータを月別の変化が分かりやすいようにグラフに表し、図 5 に示した。

個体数は 10 月～3 月までの秋から春にかけて多くの数が記録され、夏期は少ない。季節による差が大きい。

種類数も夏鳥が飛来する春の繁殖期と、冬鳥が飛来する越冬期に多く、夏期はやや少ないが、季節による差は小さい。

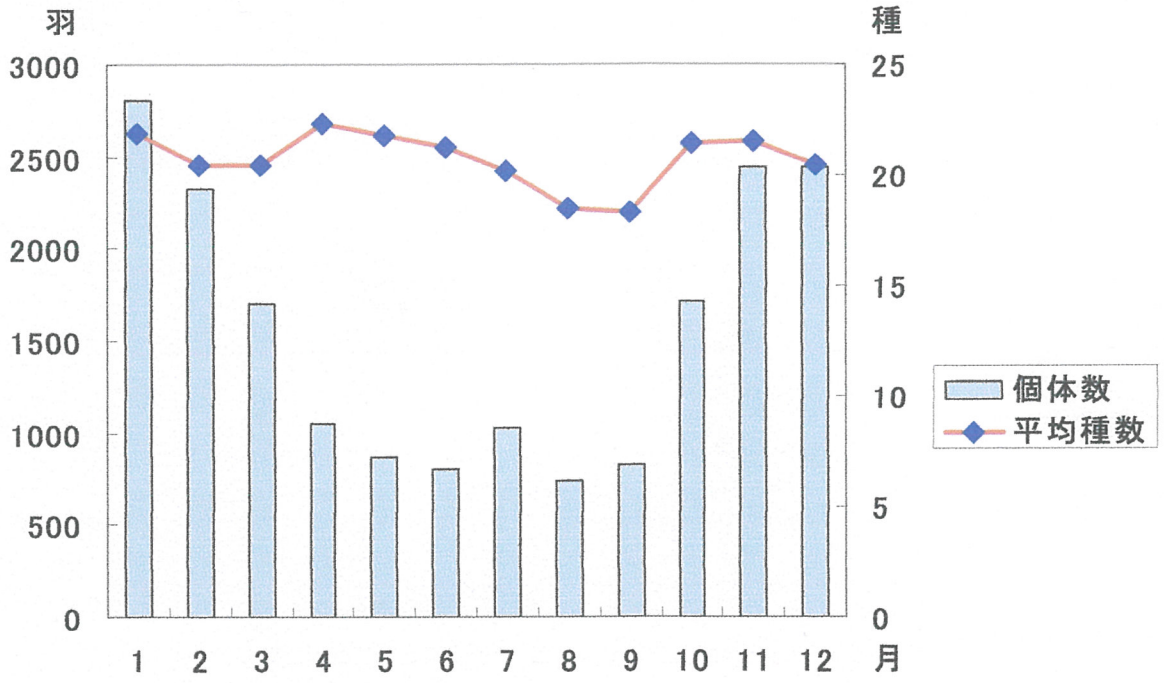


図5 個体数と平均種類数の月別変化

コラム2



「清里湖の名物の鳥」というとカヤクグリではないでしょうか。冬、標高の高い山から下りてきます。名前の通り、藪の中を動き回ります。羽も藪の色に似ていて、見つけにくい鳥です。藪のある斜面から特徴のある高い声が響き、(あっカヤクグリだ)と、その存在に気がつきます。他の地点では、なかなか出会えないのですが、清里湖では冬期、出現率が高い鳥です。

(8) 年別の記録

表4 年別の記録

	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
	種類数	55	58	48	53	55	59	55	54	58	59	54	95
	個体数	2078	1780	1931	2213	1416	1474	1255	1223	1246	2266	1884	18766
4	ヤマドリ					2							2
24	オシドリ	575	142	637	1131	355	338	169	99	88	712	183	4429
27	ヨシガモ	1											1
28	ヒドリガモ	30	49	94	9		33	17	6	21		22	281
29	アメリカヒドリ									2			2
30	マガモ	331	390	432	417	173	326	147	152	206	470	713	3757
32	カルガモ	114	153	113	77	42	85	73	41	26	35	82	841
34	ハシビロガモ											1	1
35	オナガガモ				1					7			8
38	コガモ	73	1	9	3	3	1	3		2	2		97
42	ホシハジロ							5		6	29	5	45
46	キンクロハジロ					10	15	24	7			23	79
59	カワアイサ						1			2	5		8
62	カイツブリ	5	9	5	14		4	4	2	5	10	3	61
74	キジバト	8	10	11	7	10	3	3	11	16	13	12	104
78	アオバト											1	1
127	カワウ	24	28	11	23	34	27	69	103	52	85	92	548
144	アオサギ	54	57	59	57	23	33	53	25	41	73	48	523
146	ダイサギ		1						1	1	1	1	5
147	チュウサギ						1						1
148	コサギ			1			1					2	4
174	バン				1								1
175	オオバン								6	3			9
184	シュウイチ						1						1
185	ホトトギス	1				1			1	1			4
187	ツツドリ										1		1
188	カッコウ		1			2					2		5
239	クサシギ										1		1
244	イソシギ						1						1
340	ハチクマ										1		1
342	トビ	8	11	8	8	10	21	11	9	16	17	13	132
355	ハイタカ						1						1
356	オオタカ		1		1			4			1		7
357	サシバ	1											1
358	ノスリ	3	1	2		1	2	2	2		5	1	19
378	アカショウビン									1			1
383	カワセミ		8	2	1		1	1	2	3		4	22
385	ヤマセミ				1	1		1	1		1		5
390	コゲラ	11	16	11	13	15	14	16	21	16	12	12	157
393	アカゲラ	6	10	7	7	13	10	14	16	13	18	13	127
397	アオゲラ	6	1		2	2	4		5	5	7	4	36
402	チョウゲンボウ		1				1						2
407	ハヤブサ											1	1
412	サンショウクイ	1	1	2	2	2	2	5	7	7	9	8	46
420	モズ		2			1	3	4	5	4	1	4	24
427	カケス	10	10	15	12	21	8	27	29	28	26	9	195
435	ハシボソガラス	15	8	7	9	3	23	2	5	6	1	6	85
436	ハシブトガラス	4	6	15	4	9	5	11	14	18	13	12	111
441	コガラ	10	5	2	3	21	13	2	2	2	2	2	64

	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
442	ヤマガラ	23	11	6	8	5	7	8	13	13	6	19	119
443	ヒガラ		27	4	3	4	7	11	5		1		62
445	シジュウカラ	27	8	54	37	61	62	75	63	54	71	101	613
452	ヒバリ	1				1					1		3
457	ツバメ	9	8	2	7	12	10	1		3	21	6	79
461	イワツバメ	102	193	150	77	80	80	59	101	180	106	98	1226
463	ヒヨドリ	68	97	45	53	61	77	80	86	87	88	73	815
464	ウグイス	14	15	9	6	4	7	4	8	12	11	12	102
465	ヤブサメ				1								1
466	エナガ	14	56	12	5	10	15	32	24	23	29	29	249
480	センダイムシクイ	3			1		7	2	2	1	3	1	20
485	メジロ	1	221	2	1	3	6		5	6	10	7	262
502	ゴジュウカラ		14	1	4	4	5	3		1	5	2	39
504	ミソサザイ									1			1
512	カワガラス		2		1			2		3			8
514	トラツグミ		2			1							3
518	クロツグミ	4		1		2			1		1		9
521	シロハラ	1	2		1	2	1		2	1	3	3	16
525	ツグミ	4	3	10	2	9	5	8	12	9	8	7	77
534	コルリ											1	1
536	ルリビタキ							1					1
540	ジョウビタキ	7	13	6	7	14	5	7	10	8	12	5	94
554	コサメビタキ		1							1			2
558	キビタキ	3	1	2	2		4	4	2	4	7	8	37
561	オオルリ	2	1	3		2	3	3	1	2	5	2	24
564	イワヒバリ	6	2		1								9
566	カヤクグリ	57	31	22	27	33	11	13	11	7	13	12	237
569	スズメ	8	9	3	3	2		1	2	9	12	7	56
573	キセキレイ	14	4	13	4	11	8	10	9	21	5	11	110
574	ハクセキレイ	6	24	17	11	9	13	13	21	12	21	17	164
575	セグロセキレイ	8	11	11	6	14	11	6	5	10	3	12	97
586	アトリ	2	1	2		11	10	1	1	1			29
587	カワラヒワ	102	43	23	11	79	34	27	13	81	86	89	588
588	マヒワ	1		1		1						1	4
592	ベニマシコ	3	2			2	1	1	6	1	2		18
595	オオマシコ										2		2
599	ウソ				5								5
600	シメ						1	1			2		4
602	イカル	5	2	3	2	1	2	5	45	1	5		71
610	ホオジロ	141	27	72	44	121	42	50	42	49	37	43	668
617	カシラダカ	92		2	60	65	38	139	137	30	115	17	695
618	ミヤマホオジロ	10	7			1	1	1	2			2	24
624	アオジ	27	2	6	1	5	1	6	1				49
628	オオジュリン		2										2
外1	コジュケイ	3											3
外21	ガビチョウ	19	16	6	19	32	22	14	21	17	22	22	210

(9) 経年変化

表４のデータを経年変化が分かりやすいようにグラフに表し、図６に示した。

(2008 年のデータは他の調査地との比較のために含んでいない)

個体数は年ごとの差が大きい。これはカモたちの大きな群れと出会い、記録されたか、どうかによる差である。特に、オシドリやマガモは大きな群れで行動する場面が見られた。

種類数は年ごとの差は小さい。

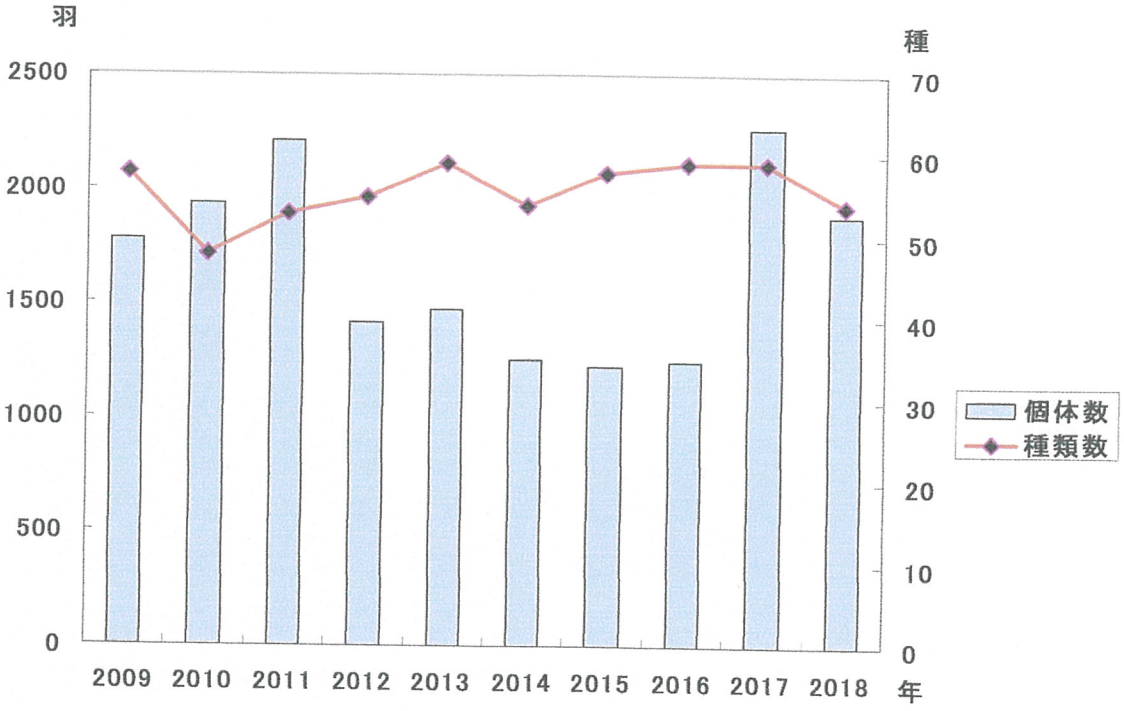


図6 個体数と種類数の経年変化

コラム3



清里湖は、例年１月中旬から３月上旬まで結氷します。湖が全面結氷すると、カモたちはどこかへと飛んで行ってしまいます。面白いのは湖面が全部凍りつく直前です。湖の中央部に残された狭い水面にカモたちは身を寄せ合う状態になります。まるで、露天風呂に入っている人たちのように見えます。春が近づき、氷がゆるむと、また戻ってきます。

(10) 山梨県レッドデータブックの鳥類

レッドデータブックは山梨県では 2005 年に発行され、2018 年に改訂された。『2018 山梨県レッドデータブック』には山梨県の絶滅のおそれのある野生動物のリストが掲載されている。鳥類は、絶滅危惧 IA に 3 種、IB に 9 種、絶滅危惧Ⅱ類に 10 種、準絶滅危惧に 19 種、情報不足に 18 種の合計 59 種が選定されている。2009-2018 年に記録されたのは次の 8 種類である。これらの貴重な種の動向には、今後も注視していきたい。

① サンショウクイ

スズメ目サンショウクイ科　準絶滅危惧
2009 年 6 月 25 日　1 羽　さえずり飛ぶ
など 25 回、計 55 羽を記録



サンショウクイ

② サンコウチョウ

スズメ目カササギヒタキ科　準絶滅危惧
2011 年 6 月 7 日　1 羽　さえずり
など 2 回、計 2 羽を記録

③ ミヤマホオジロ

スズメ目ホオジロ科　準絶滅危惧
2009 年 12 月 6 日　5 羽　えさを啄ばむ
など 15 回、計 50 羽を記録



ミヤマホオジロ

④ ヤマシギ

チドリ目シギ科　情報不足
2012 年 4 月 8 日　1 羽　湿地を歩く
1 回だけの記録である

⑤ クロジ

スズメ目ホオジロ科　情報不足
2012 年 6 月 18 日　3 羽　やぶを歩く
1 回だけの記録である

⑥ オオマシコ

スズメ目アトリ科　情報不足
2013 年 1 月 20 日　1 羽　カラマツの根元のやぶを歩く
など 2 回、計 3 羽を記録

⑦ ノジコ

スズメ目ホオジロ科　準絶滅危惧

2016年6月11日　1羽　別荘の庭木に止まる

など2回、計2羽を記録

⑧トラツグミ

スズメ目ヒタキ科　準絶滅危惧

2017年1月14日　1羽　林内を歩く

など3回、計3羽を記録

コラム4



外来種としてガビチョウが記録されています。飼い鳥として中国から移入されました。しかし、「カゴぬけ」して、東京から神奈川、山梨へと分布を広げてきました。井富コースで初めて記録したのは2010年3月でした。冬でも、大きな声で鳴くので、その存在が分かります。他の鳥の声を真似するのも特徴です。藪の中をこそこそと動き、人の姿を見ると、すぐに移動してしまいます。

3.おわりに

今回の集計はまだ10年間分だけのデータです。野鳥たちの種類も、個体数も増えているのか、減っているのかを判断できる材料とは言えません。さらに、調査は続けます。個々の野鳥については、「鳥類目録」としてまとめる予定です。調査地では、別荘や定住住宅が増え、広い面積の樹木が伐採されました。隣接地には大きなソーラーパネルが設置されるなど、環境の変化がありました。今後も野鳥たちの動向に注視していきたいと思います。

井富ため池の野鳥 2019

野鳥センサス調査　2009-2018 年の記録



カワラヒワ

北杜市大泉町にある井富ため池周辺コースでの調査は 2009 年から始めました。2018 年までの 10 年間の調査では、85 種類の野鳥が記録されました。これは山梨全県で確認された 266 種のおよそ三分の一にあたります。井富ため池における野鳥たちの動向が少し分かりました。

これで 10 年間分のデータが集まりました。それぞれの野鳥の動向や行動を鳥類目録として、まとめる予定です。

この 10 年の間に、調査地内では数多くの樹木が伐採されました。野鳥たちの生息にも影響があると思われます。野鳥たちが、安心して暮らせる自然豊かな環境を次世代に残したいものです。

Today Birds , Tomorrow Men

野鳥たちが暮らせる環境は人間にとっても大切です。

2019 年 1 月　八ヶ岳野鳥クラブ

1. 調査コースと調査方法

調査地は山梨県西北部の北杜市大泉町にあり、農業用として造られた井富、飛沢の二つのため池周辺の林間地にある。ここは「山梨の野鳥観察地」に選定されている。

調査コースは標高約 1000m の飛沢ため池を起点として、別荘地が点在する林間の未舗装の道を上がる。コース最高地点の標高約 1100m の井富ため池からは舗装道を下り、起点に戻る。飛沢ため池、井富ため池は厳冬期には全面結氷することが多い。

調査方法は日本野鳥の会神奈川支部で実施している定線センサスに準じて行った。毎月1回、雨天日を避け、午前中に終了するように実施した。図1に示す1周約 4km の調査コースを歩き、見聞きした鳥の種類、個体数及び行動を記録した。通常のセンサス調査はコースの両側 25m の範囲であるが、ここでは見聞きした範囲の鳥を記録した。調査には双眼鏡及び望遠鏡を使用した。

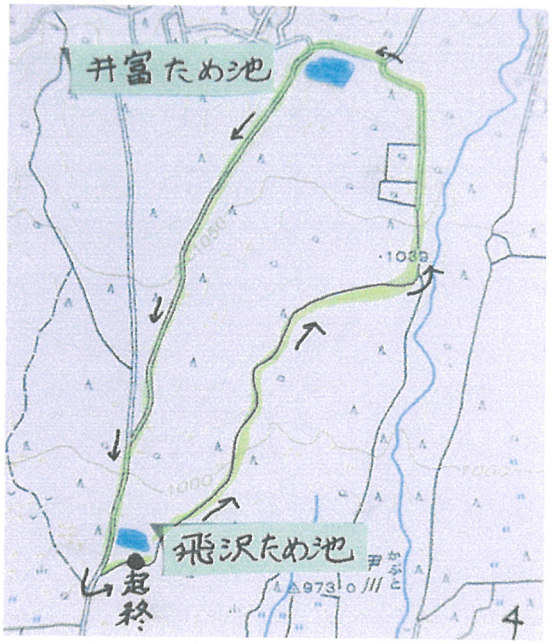


図1 調査コース図

2. 調査結果の概要

2009年から2018年までの10年間毎月1回 計120回調査を行った結果をまとめた。

(1) 記録された種類と総個体数

10年間で記録された鳥は 12 目、33 科、85 種 7663 羽であった。記録された種類と個体数の一覧を表1に示した。種数は日本鳥類目録改第7版に記載されている日本の野鳥 633 種のおよそ 13%、山梨県内で記録された 266 種のおよそ 31%にあたる。

データは調査時に記録された数だけで、他の観察時に見られた数を含めると、割合はもっと高くなる。夜行性であるヨタカも調査時間外では観察されている。

表1 記録された種類と個体数

目	科	和名	個体数
キジ目	キジ科	キジ	3
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	2
		マガモ	68
		カルガモ	152
		オナガガモ	3
		コガモ	217
		ホシハジロ	5
		キンクロハジロ	2
ハト目	ハト科	キジバト	127
		アオバト	4
カツオドリ目	ウ科	カワウ	2
ペリカン目	サギ科	アオサギ	10
		ダイサギ	2
		コサギ	1
ツル目	クイナ科	バン	1
		オオバン	3
カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	7
		ツツドリ	1
		カッコウ	6
チドリ目	シギ科	ヤマシギ	1
タカ目	タカ科	トビ	35
		ノスリ	9
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	4
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	389
		アカゲラ	310
		アオゲラ	92
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	55
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	2
	モズ科	モズ	8
	カラス科	カケス	244
		オナガ	1
		ハシボソガラス	52
		ハシブトガラス	192
	キクイタダキ科	キクイタダキ	4
	シジュウカラ科	コガラ	168
		ヤマガラ	299
		ヒガラ	170
		シジュウカラ	1383
	ツバメ科	ツバメ	4
		イワツバメ	3
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	790
	ウグイス科	ウグイス	167
		ヤブサメ	1

目	科	和名	個体数
スズメ目	エナガ科	エナガ	368
	ムシクイ科	メボソムシクイ	3
		エゾムシクイ	7
		センダイムシクイ	39
	メジロ科	メジロ	71
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	101
	ミソサザイ科	ミソサザイ	5
	ムクドリ科	コムクドリ	4
	ヒタキ科	トラツグミ	3
		クロツグミ	44
		シロハラ	33
		アカハラ	4
		ツグミ	78
		コルリ	1
		ルリビタキ	28
		ジョウビタキ	42
		サメビタキ	1
		コサメビタキ	12
		キビタキ	165
		オオルリ	43
	イワヒバリ科	イワヒバリ	3
		カヤクグリ	3
	スズメ科	スズメ	1
	セキレイ科	キセキレイ	32
		ハクセキレイ	11
		セグロセキレイ	7
		ビンズイ	1
	アトリ科	アトリ	218
		カワラヒワ	538
		マヒワ	18
		ベニマシコ	26
		オオマシコ	3
		ウソ	13
		シメ	21
		イカル	66
	ホオジロ科	ホオジロ	347
		カシラダカ	199
		ミヤマホオジロ	50
		ノジコ	2
		アオジ	8
		クロジ	3
スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ	42
12目	33科	85種	7663羽

赤字　外来種

(2) 季節区分

留鳥が最も多く、半数近くを占め、冬鳥、夏鳥、旅鳥の順であった。

季節の区分は当調査地におけるものであり、日本全体や他の地方とは異なる場合がある。複数の区分にあてはまる鳥類もあるが、ここでは主な区分を一つ選び、一覧を表 3 に示した。

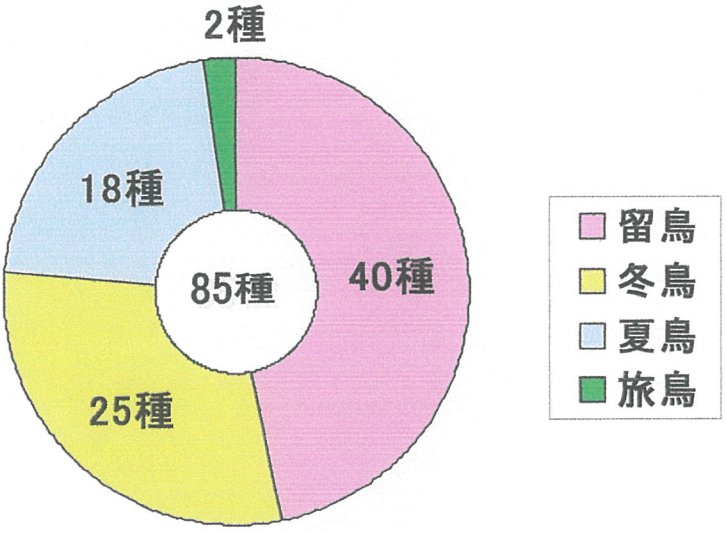


図2 季節区分

(3) 出現率

個体数に関係なく、観察月にその種が出現した月数の割合が出現率である。表 2 に上位 20 種を示す。一年中見られる留鳥が上位を占めている。シジュウカラは 100%で、120 回の調査では毎回出会えたことになる。逆に、120 回のち、1 回だけの記録にとどまった野鳥も 17 種ある。

表 2 出現率 （上位 20 種）

順	種　名	出現率%	順	種　名	出現率%
1	シジュウカラ	100	11	コガラ	62
2	コゲラ	93	12	キジバト	58
3	ヒヨドリ	91	13	ウグイス	50
4	アカゲラ	90	13	カケス	49
5	カワラヒワ	83	15	アオゲラ	46
6	ヤマガラ	82	15	ゴジュウカラ	44
7	ハシブトガラス	75	17	カルガモ	40
8	ホオジロ	73	18	イカル	34
9	エナガ	68	19	キビタキ	28
10	ヒガラ	66	19	コガモ	28

(4) 優占度

その種が総個体数の中で占める割合を種別優占度として、表１の個体数の上位 20 種を図３に示した。調査地の大半は林内にあるため山野の鳥が多く、シジュウカラは 1383 羽で、総個体数のおよそ 2 割を占めている。1 羽だけしか記録されていない野鳥も 10 種ある。調査地内には人家がないこともあり、スズメもその中の１種に入っている。

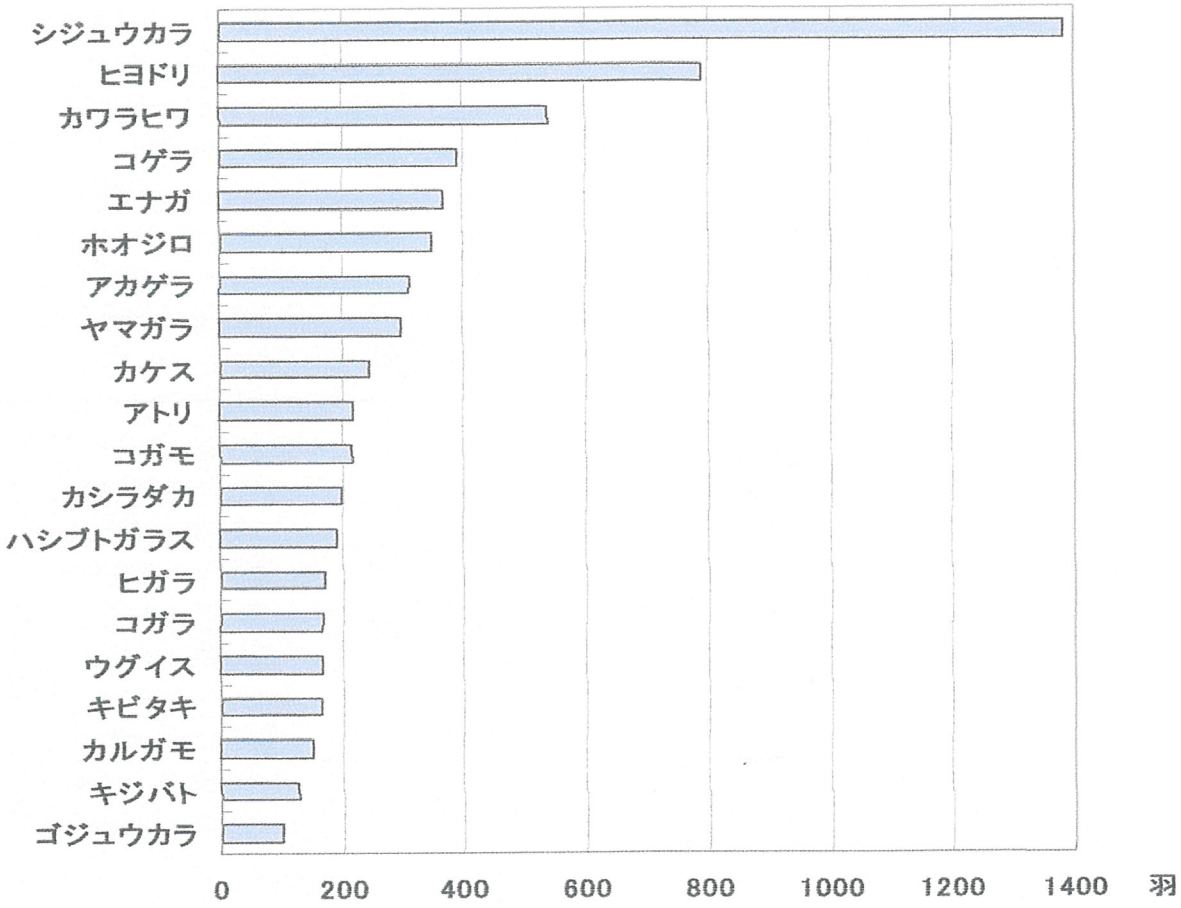


図3 優占度（上位20種）

コラム1



井富ため池コースで、出現率が 2 番目、93%と高い割合で見られたのはキツツキの仲間のコゲラです。幹や枝をくちばしで突き、エサとなる昆虫を探しながら歩きます。「ゲッー」と低い、一音だけの声が林内に響きます。日本で一番小さいキツツキです。

(5) 生息環境別の鳥相

記録された 85 種を環境によって、山野の鳥と水辺の鳥に分け、種類数の比率と個体数の比率をそれぞれ図 4-1、図 4-2 に示した。山野の鳥は 70 種　7187 羽、水辺の鳥は 15 種 476 羽であった。調査地には林が多く、山野の鳥が多くを占めている。二つのため池の水面はあまり広くないため、飛来する水辺の鳥の個体数も種類数も多くない。

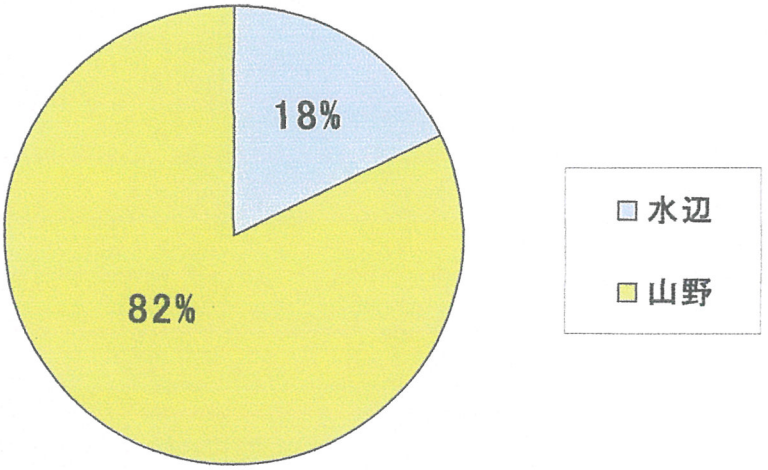


図4-1 環境別の種類数比率

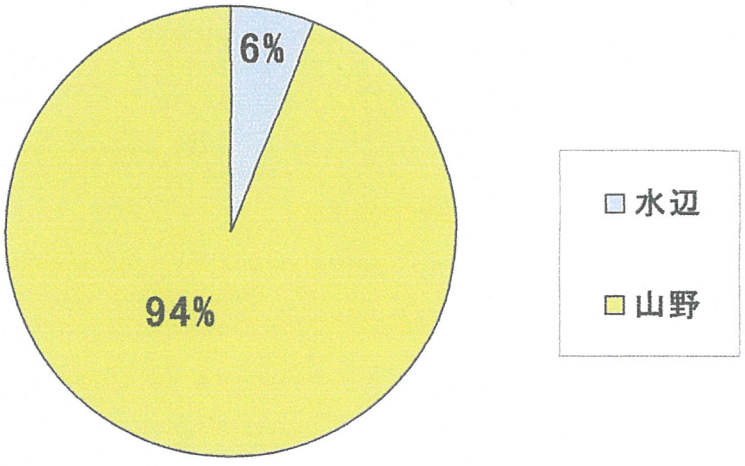


図4-2 環境別の個体数比率

(6) 月別の記録

表3 月別の記録（野鳥ごよみ）

R: 留鳥　W: 冬鳥　S: 夏鳥　T: 旅鳥

50羽以上　25-49羽

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	季節区分
	平均種類数	18.0	17.6	17.7	19.0	20.1	21.0	17.2	13.2	13.9	14.7	17.0	19.1	209	
	種類数	41	38	39	48	42	45	42	33	28	29	42	44	85	
	個体数	811	694	780	669	640	675	496	341	472	541	677	867	7663	
5	キジ			1	1		1							3	R
28	ヒドリガモ											2		2	W
30	マガモ	38	6	8	1	1					1	7	6	68	W
32	カルガモ	19	31	11	23	10	7	1	1	2	5	31	11	152	R
35	オナガガモ	1		2										3	W
38	コガモ	2	29	47	16	6	1				9	62	45	217	W
42	ホシハジロ												5	5	W
46	キンクロハジロ				2									2	W
74	キジバト	6	5	9	9	10	19	16	17	21	12	1	2	127	R
78	アオバト						4							4	R
127	カワウ		1		1									2	R
144	アオサギ							1	1	4	1	2	1	10	R
146	ダイサギ	2												2	R
148	コサギ												1	1	R
174	バン									1				1	R
175	オオバン											2	1	3	R
185	ホトトギス					1	3	2	1					7	S
187	ツツドリ					1								1	S
188	カッコウ						6							6	S
212	ヤマシギ				1									1	W
342	トビ	1	5	3	2	4	1	3	3	2		3	8	35	R
358	ノスリ		1	1	1	1	1	1	1				2	9	R
383	カワセミ							1		2		1		4	R
390	コゲラ	47	44	43	43	23	24	30	17	25	29	28	36	389	R
393	アカゲラ	21	21	20	29	28	35	23	33	37	33	23	7	310	R
397	アオゲラ	4	6	8	15	24	8	8	3	8	5	2	1	92	R
412	サンショウクイ					19	25	4	7					55	S
418	サンコウチョウ					1	1							2	S
420	モズ						1				5	2		8	R
427	カケス	28	12	30	23	3	1	1	3	6	39	50	48	244	R
429	オナガ						1							1	R
435	ハシボソガラス	3	7	5	11	3	5	3	3	1	2	7	2	52	R
436	ハシブトガラス	17	10	20	20	18	19	16	11	16	11	17	17	192	R
438	キクイタダキ		3									1		4	R
441	コガラ	12	13	23	12	4	6	11	13	25	26	11	12	168	S
442	ヤマガラ	39	46	45	31	15	14	4	11	23	31	18	22	299	R
443	ヒガラ	8	8	6	10	12	18	12	22	26	21	16	11	170	R
445	シジュウカラ	152	133	173	146	105	103	71	67	86	108	92	147	1383	R
457	ツバメ				1			3						4	S
461	イワツバメ								3					3	S
463	ヒヨドリ	41	14	11	23	75	111	99	60	89	93	102	72	790	R
464	ウグイス			3	34	46	32	25	3	6	9	6	3	167	R
465	ヤブサメ					1								1	S
466	エナガ	41	52	44	13	19	16	13	17	31	45	50	27	368	R
477	メボソムシクイ					3								3	S
479	エゾムシクイ				2		1	4						7	S
480	センダイムシクイ				2	19	16	1	1					39	S

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	
485	メジロ	1			9	13	10	4	5	19	3	4	3	71	R
502	ゴジュウカラ	7	11	13	28	9	10	4	1	6	7	4	1	101	R
504	ミソサザイ			1	4									5	R
508	コムクドリ							4						4	T
514	トラツグミ	1							2					3	R
518	クロツグミ				2	9	16	16			1			44	S
521	シロハラ	11	6	4	1	1			1			1	8	33	W
522	アカハラ	1					2	1						4	W
525	ツグミ	16	9	5	5							3	40	78	W
534	コルリ						1							1	S
536	ルリビタキ	4	4	1	4	1	2	4		1		3	4	28	W
540	ジョウビタキ	8	7	1	1	1		1				11	12	42	W
553	サメビタキ							1						1	T
554	コサメビタキ					6	2	3	1					12	S
558	キビタキ				3	59	65	35	1	2				165	S
561	オオルリ				1	19	15	8						43	S
564	イワヒバリ					1							2	3	W
566	カヤクグリ												3	3	W
569	スズメ											1		1	R
573	キセキレイ	1	1		3	4	4	7	3	4	4	1		32	R
574	ハクセキレイ	1			1		1	2			4		2	11	R
575	セグロセキレイ	1										3	3	7	R
580	ビンズイ							1						1	R
586	アトリ	40	45	84	24							2	23	218	W
587	カワラヒワ	99	78	66	51	42	20	11	15	9	18	54	75	538	R
588	マヒワ		9	2									7	18	W
592	ベニマシコ	9	2	2	3							5	5	26	W
595	オオマシコ	1											2	3	W
599	ウソ	3	2	4	1							2	1	13	W
600	シメ	2	2	14	3									21	W
602	イカル	2	4	8	10	4	2	7	6	11	5	4	3	66	W
610	ホオジロ	52	33	37	24	16	36	28	7	5	10	30	69	347	R
617	カシラダカ	46	21	16	7						2	11	96	199	W
618	ミヤマホオジロ	22	8	2									18	50	W
623	ノジコ					1	1							2	S
624	アオジ		2	2	3							1		8	W
625	クロジ						3							3	W
外21	ガビチョウ	1	3	5	9	2	5	6	1	4	2	1	3	42	R

(7)　月別変化

表３のデータを月別の変化が分かりやすいようにグラフに表し、図５に示した。
個体数は 12 月～3 月の冬期に多く記録されている。
種類数は冬の越冬期から初夏の繁殖期にかけて多く記録され、夏期は少ない。
種類数が多い時期は個体数も多く見られ、同じような変化傾向がある。

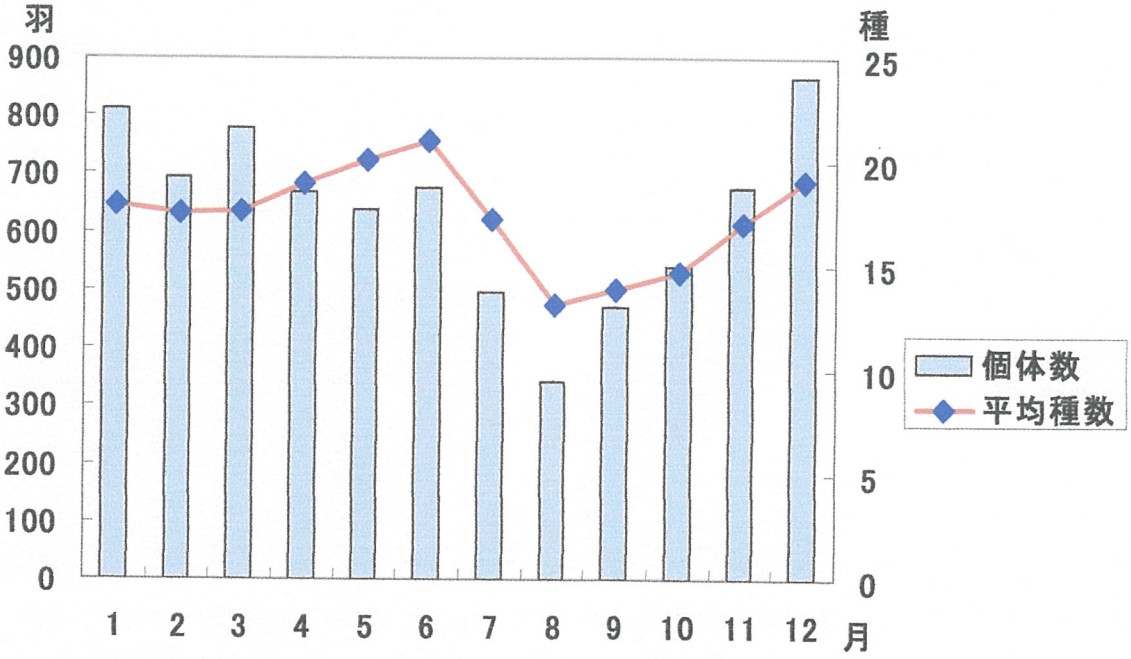


図5 個体数と平均種類数の月別変化

コラム2



井富ため池コースの大半は林の中です。初夏、あちらこちらからさえずりが響き渡ってきます。樹木の葉が茂る時期で、鳥たちの姿は見にくいのですが、さえずりが美しい季節です。「月日星、ホイホイホイ」と聞こえるサンコウチョウの声は誰でも、すぐに覚えられることでしょう。針葉樹の薄暗い林の中にいることが多い鳥です。調査では２回だけしか出会えませんでした。

(8) 年別の記録

表4 年別の記録

	年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合 計
	種類数	46	49	46	49	50	46	52	50	53	56	85
	個体数	764	626	566	772	663	792	791	931	866	892	7663
5	キジ		2					1				3
28	ヒドリガモ				2							2
30	マガモ	1	3	7	2	12	5	7		1	12	50
32	カルガモ	2	7	3	23	6	16	17	16	15	47	152
35	オナガガモ							2			1	3
38	コガモ	6	16	11	33	35	35	29		7	45	217
42	ホシハジロ								5			5
46	キンクロハジロ						2					2
74	キジバト	8	6	1	15	14	7	15	17	19	16	118
78	アオバト							1	1	1	1	4
127	カワウ		1								1	2
144	アオサギ			1	1				1	2	5	10
146	ダイサギ										2	2
148	コサギ									1		1
174	バン										1	1
175	オオバン									3		3
185	ホトトギス	1	2	1		1		2				7
187	ツツドリ					1						1
188	カッコウ	1	1		2	1				1		6
212	ヤマシギ				1							1
342	トビ	2	2	1	5	2	6	5	5	2	5	35
358	ノスリ					1	1	3	1		3	9
383	カワセミ							1		2	1	4
390	コゲラ	47	26	3	38	37	32	42	44	46	47	362
393	アカゲラ	27	28	2	36	25	44	28	36	28	38	292
397	アオゲラ	7	8	13	7	7	1	8	8	1	14	74
412	サンショウクイ	2	2	5	5	8	4	5	4	14	6	55
418	サンコウチョウ			1					1			2
420	モズ	1			1	2		1	2		1	8
427	カケス	14	17	15	41	19	29	14	65	13	17	244
429	オナガ				1							1
435	ハシボソガラス	17	2	9	2	4	3	2	6	1	6	52
436	ハシブトガラス	16	23	17	18	2	24	18	17	22	17	174
438	キクイタダキ						2				2	4
441	コガラ	27	18	14	21	22	21	13	12	13	7	168
442	ヤマガラ	36	3	32	25	24	41	34	23	25	29	272
443	ヒガラ	18	23	12	19	26	23	22	13	7	7	170
445	シジュウカラ	141	119	129	138	91	144	132	149	175	165	1383
457	ツバメ	1							2		1	4
461	イワツバメ							3				3
463	ヒヨドリ	98	48	6	81	8	92	72	93	86	8	592
464	ウグイス	21	21	14	15	16	8	11	18	18	25	167
465	ヤブサメ		1									1
466	エナガ	49	33	27	24	28	36	23	55	46	47	368
477	メボソムシクイ	1	1			1						3
479	エゾムシクイ	2				1		1	3			7
480	センダイムシクイ	4	2	1	8	3	5	4	3	3	6	39
485	メジロ	1	4	1	6	2	5	1	5	28	9	62
502	ゴジュウカラ	1	5	15	12	11	1	9	9	16	13	92

	年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
504	ミソサザイ		1		1		1		1		1	5
508	コムクドリ	4										4
514	トラツグミ			1		1				1		3
518	クロツグミ	5	4	6	3	1	11	5	5	2	2	44
521	シロハラ	5	5	4	4	1	5	2	2	3	2	33
522	アカハラ		1						2	1		4
525	ツグミ	7	4	2	7	2	9	1	31	9	6	78
534	コルリ		1									1
536	ルリビタキ		4		2		3	3	1	1	5	19
540	ジョウビタキ	2	3	3	3	3	4	8	4	5	7	42
553	サメビタキ				1							1
554	コサメビタキ	2	1	1			1	2	2	1	2	12
558	キビタキ	11	11	13	8	14	11	19	27	29	22	165
561	オオルリ	8	9	4	3	5	4	3	2	3	2	43
564	イワヒバリ				2					1		3
566	カヤクグリ			1						2		3
569	スズメ										1	1
573	キセキレイ	1		2	3	4	1	5	5	3	8	32
574	ハクセキレイ		1	1		2	2	1		3	1	11
575	セグロセキレイ					1	2		1	2	1	7
580	ビンズイ	1										1
586	アトリ	3	1		17	36	9	76	31	44	1	218
587	カワラヒワ	65	53	34	61	33	49	37	73	64	69	538
588	マヒワ			2		2	1	1	7	5		18
592	ベニマシコ				6	7	2		3	1	7	26
595	オオマシコ					1				2		3
599	ウソ	4	2	1	1	2		2			1	13
600	シメ	14	2	1				2	1	1		21
602	イカル	14	5	3	3	1	4	7	13	11	5	66
610	ホオジロ	45	48	2	25	33	32	38	44	34	28	329
617	カシラダカ	7	13	6	3	3	23	36	59	21	28	199
618	ミヤマホオジロ	5	3	3	7	8	8	12			4	50
623	ノジコ								2			2
624	アオジ			5				2			1	8
625	クロジ				3							3
外21	ガビチョウ		3	4	9	3	5	3	1	3	11	42

(9)　経年変化

表４のデータを月別の変化が分かりやすいようにグラフに表し、図６に示した。

種類数も個体数も多少の増減はあるが、やや増加の傾向が見られる。樹木の伐採跡地に草木が茂り始め、エサとなる種子が増えていることや、調査者の観察技術の向上も記録数の増加の一因とも考えられる。

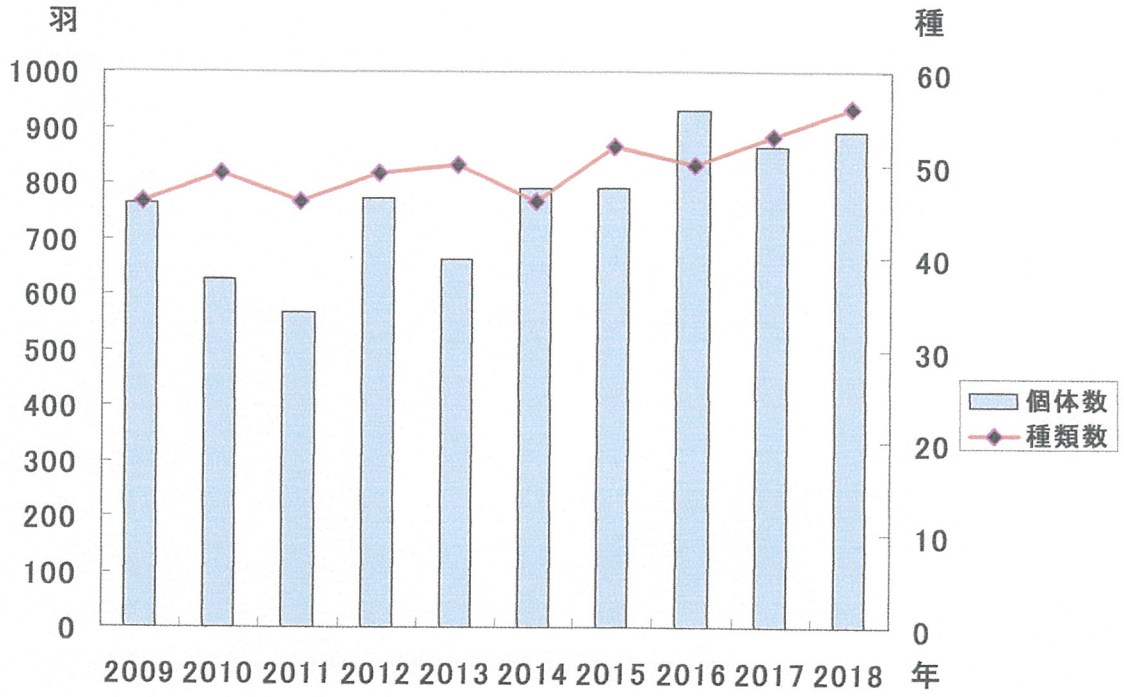


図6 個体数と種類数の経年変化

コラム3



この 10 年間で井富ため池コース内では多くの樹木が伐られました。鳥たちの生息環境の悪化が心配されました。しかし、個体数も種類数もやや増えている傾向が見られます。伐採の跡地にはマツヨイグサなどの草木が茂り始め、藪になろうとしています。その草木の小さな種をエサとする鳥たちの姿が見られます。ベニマシコもその一つです。

(10) 山梨県レッドデータブックの鳥類

レッドデータブックは山梨県では 2005 年に発行され、2018 年に改訂された。『2018 山梨県レッドデータブック』には山梨県の絶滅のおそれのある野生動物のリストが掲載されている。鳥類は、絶滅危惧 IA に 3 種、IB に 9 種、絶滅危惧Ⅱ類に 10 種、準絶滅危惧に 19 種、情報不足に 18 種の合計 59 種が選定されている。清里湖で 2008-2018 年に記録されたのは次の 11 種類である。ミヤマホオジロとサンショウクイは多く観察されたが、記録は 1 回だけという種が半数を超えている。

これらの貴重な種の動向には、これからも注視していきたい。

① アカショウビン

ブッポウソウ目カワセミ科　絶滅危惧ⅠB 類

2016 年 6 月 11 日 1 羽　湖の対岸から特徴のある声が聞こえる

1 回だけの記録である

② ハチクマ

タカ目タカ科　絶滅危惧Ⅱ類

2017 年 8 月 24 日 1 羽　湖の上空を旋回。

1 回だけの記録である

③ ハイタカ

タカ目タカ科　絶滅危惧Ⅱ類

2013 年 12 月 24 日 1 羽　上空を飛翔

1 回だけの記録である

④ ハヤブサ

ハヤブサ目ハヤブサ科　絶滅危惧Ⅱ類

2018 年 10 月 19 日 1 羽　斜面林に止まる。

1 回だけの記録である



オオタカ

⑤ オオタカ

タカ目タカ科　準絶滅危惧

2009 年 9 月 28 日 1 羽　斜面林に入る

2011 年 4 月 7 日 1 羽　ハシボソガラスにモビングされる。

など、7 回計 7 羽を記録

⑥ サシバ

タカ目タカ科　準絶滅危惧

2008年6月17日 1羽　上空を通過する。

1回だけの記録である

⑦ ヤマセミ

ブッポウソウ目カワセミ科　準絶滅危惧

2011年7月6日 1羽　湖の奥へ飛ぶ。

など、5回 計5羽を記録



サンショウクイ

⑧ サンショウクイ

スズメ目サンショウクイ科　準絶滅危惧

2008年6月17日　1羽　さえずり

など、29回計46羽を記録

⑨ トラツグミ

スズメ目ヒタキ科　準絶滅危惧

2009年1月21日　2羽　歩く

2012年2月24日　1羽　歩く

など、2回計3羽を記録



ミヤマホオジロ

⑩ ミヤマホオジロ

スズメ目ホオジロ科　準絶滅危惧

2008年12月11日 10羽　えさを啄ばむ

など、10回計24羽を記録

⑪ オオマシコ

スズメ目アトリ科　情報不足

2017年1月12日 2羽　湖の対岸から声が聞こえる

1回だけの記録である

3. おわりに

今後も調査を続け、野鳥たちの動向に注視していきたい。個々の野鳥については、「鳥類目録」としてまとめる予定です。中部横断道路の建設による影響も心配です。野鳥たちが暮らせる環境を次世代に引継ぎたいものです。

八ヶ岳南麓の野鳥2019

野鳥センサス調査　2008-2018年の記録



ルリビタキ

清里湖での2008年から11年間、132回、井富ため池周辺で10年間、120回実施しました。ここでは、2地点での合計252回の調査データを統合してみました。その結果、記録されたのは108種でした。

2つの調査地は環境が異なり、データを統合することが適当なのか、検討する必要があるかと思います。ここでは、八ヶ岳南麓という広い地域での野鳥たちの動向を探るデータということで、ご理解ください。

1. 調査結果の概要

清里湖での11年間132回。井富ため池周辺での10年間120回。2地点で合わせて合計252回実施したデータを統合してみた。

(1) 記録された種類と個体数

記録された鳥は14目、37科、108種、26429羽であった。記録された種類と個体数の一覧を表1に示した。日本鳥類目録改第7版に記載された日本の野鳥の633種のおよそ17%、山梨県内で記録された266種のおよそ44%にあたる。

データは、調査時に記録された数であり、他の観察時に見られた種類を含めると、割合はもっと高くなる。夜行性であるフクロウも調査時間外では観察されている。

表1 記録された種類と個体数

	調査地	井富	清里湖	合計
	種類数	85	95	108
	個体数	7663	18766	26429
4	ヤマドリ		2	2
5	キジ	3		3
24	オシドリ		4429	4429
27	ヨシガモ		1	1
28	ヒドリガモ	2	281	283
29	アメリカヒドリ		2	2
30	マガモ	68	3757	3825
32	カルガモ	152	841	993
34	ハシビロガモ		1	1
35	オナガガモ	3	8	11
38	コガモ	217	97	314
42	ホシハジロ	5	45	50
46	キンクロハジロ	2	79	81
59	カワアイサ		8	8
62	カイツブリ		61	61
74	キジバト	127	104	231
78	アオバト	4	1	5
127	カワウ	2	548	550
144	アオサギ	10	523	533
146	ダイサギ	2	5	7
147	チュウサギ		1	1
148	コサギ	1	4	5
174	バン	1	1	2
175	オオバン	3	9	12
184	ジュウイチ		1	1
185	ホトトギス	7	4	11
187	ツツドリ	1	1	2
188	カッコウ	6	5	11
212	ヤマシギ	1		1
239	クサシギ		1	1
244	イソシギ		1	1
340	ハチクマ		1	1
342	トビ	35	132	167
355	ハイタカ		1	1
356	オオタカ		7	7
357	サシバ		1	1
358	ノスリ	9	19	28
378	アカショウビン		1	1
383	カワセミ	4	22	26
385	ヤマセミ		5	5
390	コゲラ	389	157	546
393	アカゲラ	310	127	437
397	アオゲラ	92	36	128
402	チョウゲンボウ		2	2
407	ハヤブサ		1	1
412	サンショウクイ	55	46	101
418	サンコウチョウ	2		2
420	モズ	8	24	32
427	カケス	244	195	439
429	オナガ	1		1
435	ハシボソガラス	52	85	137
436	ハシブトガラス	192	111	303
438	キクイタダキ	4		4

		井富	清里湖	合計
441	コガラ	168	64	232
442	ヤマガラ	299	119	418
443	ヒガラ	170	62	232
445	シジュウカラ	1383	613	1996
452	ヒバリ		3	3
457	ツバメ	4	79	83
461	イワツバメ	3	1226	1229
463	ヒヨドリ	790	815	1605
464	ウグイス	167	102	269
465	ヤブサメ	1	1	2
466	エナガ	368	249	617
477	メボソムシクイ	3		3
479	エゾムシクイ	7		7
480	センダイムシクイ	39	20	59
485	メジロ	71	262	333
502	ゴジュウカラ	101	39	140
504	ミソサザイ	5	1	6
508	コムクドリ	4		4
512	カワガラス		8	8
514	トラツグミ	3	3	6
518	クロツグミ	44	9	53
521	シロハラ	33	16	49
522	アカハラ	4		4
525	ツグミ	78	77	155
534	コルリ	1	1	2
536	ルリビタキ	28	1	29
540	ジョウビタキ	42	94	136
553	サメビタキ	1		1
554	コサメビタキ	12	2	14
558	キビタキ	165	37	202
561	オオルリ	43	24	67
564	イワヒバリ	3	9	12
566	カヤクグリ	3	237	240
569	スズメ	1	56	57
573	キセキレイ	32	110	142
574	ハクセキレイ	11	164	175
575	セグロセキレイ	7	97	104
580	ビンズイ	1		1
586	アトリ	218	29	247
587	カワラヒワ	538	588	1126
588	マヒワ	18	4	22
592	ベニマシコ	26	18	44
595	オオマシコ	3	2	5
599	ウソ	13	5	18
600	シメ	21	4	25
602	イカル	66	71	137
610	ホオジロ	347	668	1015
617	カシラダカ	199	695	894
618	ミヤマホオジロ	50	24	74
623	ノジコ	2		2
624	アオジ	8	49	57
625	クロジ	3		3
628	オオジュリン		2	2
外1	コジュケイ		3	3
外21	ガビチョウ	42	210	252

(2) 季節区分

留鳥が最も多く、冬鳥、夏鳥、旅鳥の順であった。

季節の区分は八ヶ岳南麓におけるものであり、日本全体や他の地方とは異なる場合がある。複数の区分にあてはまる鳥類もあるが、ここでは主な区分を一つ選び、一覧を表3に示した。

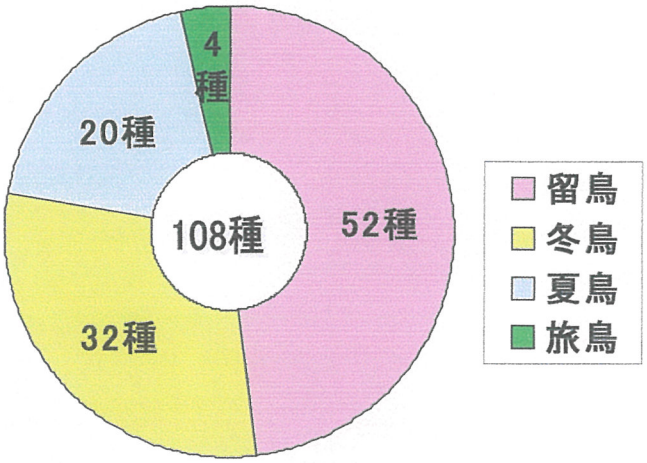


図1 季節区分

(3) 出現率

個体数とは関係なく、観察時にその種が出現した月数の割合が出現率である。表2に上位20種を示す。シジュウカラは95%の出現率で、ほぼ毎回出会えたことになる。一年中見られる留鳥が上位を占めている。逆に、252回のうち、記録されたのが1回だけという野鳥も20種ある。環境の異なる2地点のデータを統合しているために、出現率はそれぞれの地点のデータ値よりも下がっている。

表2 出現率（上位20種）

順	種 名	出現率 %	順	種 名	出現率 %
1	シジュウカラ	95	10	ガビチョウ	53
2	ヒヨドリ	93	12	キジバト	52
3	コゲラ	83	13	カケス	48
4	ホオジロ	81	14	トビ	48
5	カワラヒワ	77	15	ウグイス	45
6	アカゲラ	74	16	ヒガラ	44
7	ヤマガラ	66	17	コガラ	43
8	ハシブトガラス	65	17	ハクセキレイ	36
9	カルガモ	58	17	マガモ	35
10	エナガ	57	20	カワウ	34

(4) 優占度

その種が総個体数の中で占める割合を種別優占度として、表1の上位20種を図2に示した。オシドリなどのカモの仲間やイワツバメなど、集団で行動することが多い鳥たちが上位を占めている。オシドリ、マガモ、シジュウカラの上位の3種で10250羽と、全体のおよそ4割を占めている。冬に群れで行動するカシラダカ、ホオジロも多い。逆に、1羽だけの記録にとどまった鳥も15種ある。

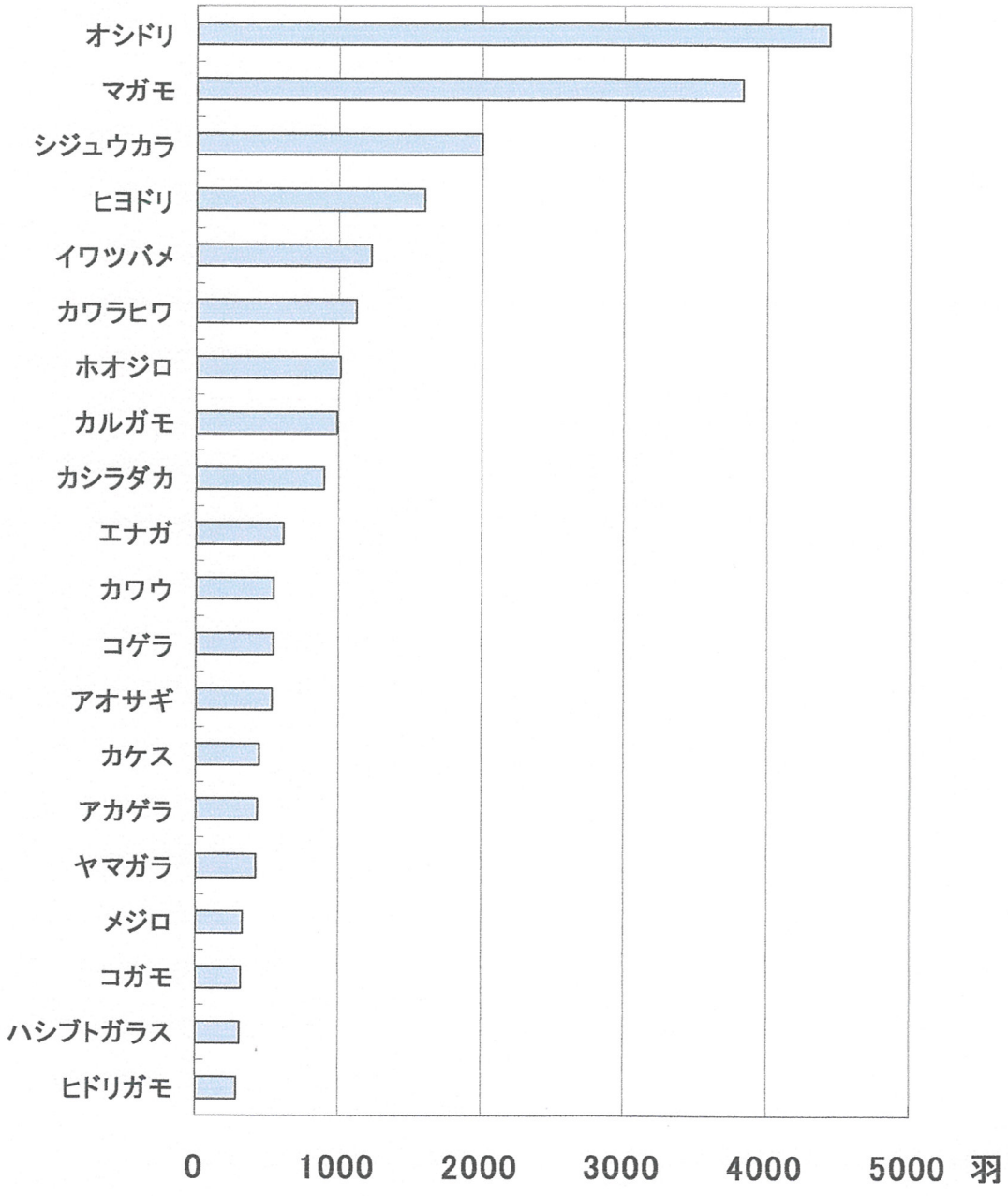


図2 優占度（上位20種）

(5) 生息環境別の鳥相

記録された 95 種を山野の鳥と水辺の鳥に分け、種類数の比率と個体数の比率を調べた。それぞれ図 3-1、図 3-2 に示した。山野の鳥は 82 種 15222 羽、水辺の鳥は 26 種 11207 羽であった。

清里湖は水辺の環境に富み、井富ため池周辺は樹林が多い。環境が異なる 2 地点のデータを統合したため、比率は 2 地点の中間の値となっている。

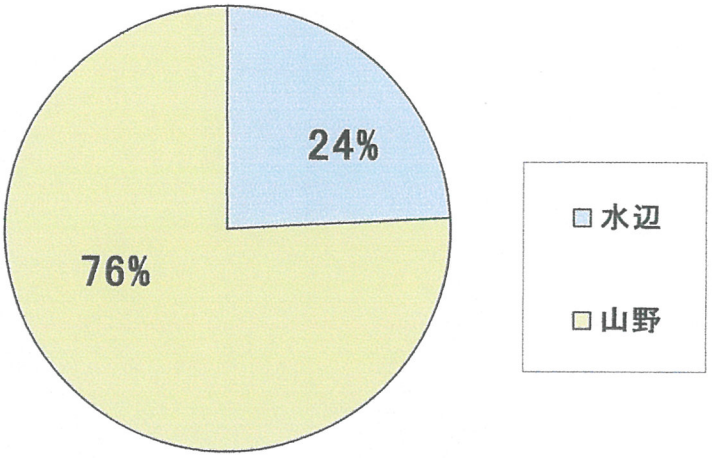


図3-1 環境別の種類数比率

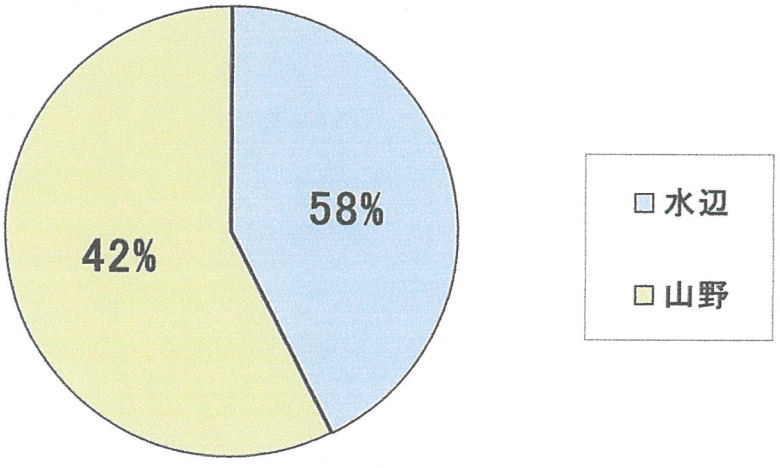


図3-2 環境別の個体数比率

(6) 月別の記録

表3 月別の記録（野鳥ごよみ）

R:留鳥　S:夏鳥　W:冬鳥　T:旅鳥

200羽以上　100～199羽

	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	季節区分
	平均種類数	20.1	19.1	19.1	20.8	21.0	21.1	18.8	16.0	16.2	18.2	19.4	19.8	229.5	
	種類数	59	55	59	62	59	57	56	48	49	46	52	58	108	
	個体数	3617	3024	2486	1724	1503	1479	1529	1080	1293	2257	3123	3314	26429	
4	ヤマドリ											2		2	R
5	キジ			1	1		1							3	R
24	オシドリ	596	739	432	216	1	1	33	38	89	727	137	52	4429	W
27	ヨシガモ										1			1	W
28	ヒドリガモ	46	5	39	5					5	47	71	2	283	W
29	アメリカヒドリ				2									2	W
30	マガモ	12	71	571	11	3		1	6	9	54	615	753	3825	W
32	カルガモ	222	76	72	51	45	39	55	51	81	66	125	11	993	W
34	ハシビロガモ										1			1	R
35	オナガガモ	1		2	1						7			11	W
38	コガモ	77	31	47	16	6	3	2			14	68	5	314	W
42	ホシハジロ	1	8										32	50	W
46	キンクロハジロ	11	18	3	12	3						1	24	81	W
59	カワアイサ	2	5										1	8	W
62	カイツブリ	3	1	6	6	4	3	2	6	6	1	8	6	61	W
74	キジバト	1	11	1	18	18	31	23	29	37	26	11	7	231	R
78	アオバト						4	1						5	R
127	カワウ	2	8	47	65	65	53	94	54	94	45	11	12	550	R
144	アオサギ			1	9	29	36	75	116	156	98	12	1	533	R
146	ダイサギ	2		1				1	2	1				7	R
147	チュウサギ									1				1	R
148	コサギ		1						1	2			1	5	S
174	バン									1		1		2	R
175	オオバン	2										8	2	12	R
184	ジュウイチ							1						1	R
185	ホトトギス					3	5	2	1					11	S
187	ツツドリ					2								2	S
188	カッコウ					2	8			1				11	S
212	ヤマシギ				1									1	S
239	クサシギ								1					1	W
244	イソシギ									1				1	T
340	ハチクマ								1					1	R
342	トビ	14	15	15	12	2	12	19	16	14	7	7	16	167	S
355	ハイタカ												1	1	R
356	オオタカ	1	1	2	1	1				1				7	R
357	サシバ						1							1	R
358	ノスリ	3	3	8	3	2	2	3	1				3	28	S
378	アカショウビン						1							1	R
383	カワセミ	1					1	4	4	7	2	3	4	26	S
385	ヤマセミ					1		2	1		1			5	R
390	コゲラ	63	65	61	6	31	37	39	24	34	39	37	56	546	R
393	アカゲラ	26	32	25	36	34	45	32	58	54	54	28	13	437	R
397	アオゲラ	5	9	9	21	31	13	8	4	13	11	3	1	128	R
402	チョウゲンボウ				2									2	R
407	ハヤブサ										1			1	R
412	サンショウクイ			1		31	39	9	2	1				101	W
418	サンコウチョウ					1	1							2	S
420	モズ	5	3	1		3	2	1		2	1	4	1	32	R
427	カケス	51	3	45	48	7	6	3	4	13	75	83	74	439	R
429	オナガ						1							1	R
435	ハシボソガラス	18	25	7	2	8	11	5	6	9	6	18	4	137	R

	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
436	ハシブトガラス	22	19	33	27	28	27	24	16	26	29	29	23	303	R
438	キクイタダキ		3									1		4	R
441	コガラ	2	16	3	15	4	7	21	16	31	38	15	19	232	R
442	ヤマガラ	56	6	6	42	19	21	7	16	32	47	28	3	418	R
443	ヒガラ	13	1	16	12	16	24	15	27	38	25	24	12	232	R
445	シジュウカラ	211	198	245	22	143	129	97	91	133	17	141	236	1996	R
452	ヒバリ			3										3	R
457	ツバメ				15	6	1	3	18	4				83	S
461	イワツバメ			36	183	313	241	318	115	3	2			1229	S
463	ヒヨドリ	97	43	27	72	155	24	19	13	172	212	159	144	1605	R
464	ウグイス	1	1	4	68	66	5	32	6	7	18	9	7	269	R
465	ヤブサメ					1	1							2	S
466	エナガ	64	89	83	26	31	18	28	25	56	71	75	51	617	R
477	メボソムシクイ					3								3	S
479	エゾムシクイ				2		1	4						7	S
480	センダイムシクイ				9	24	22	2	2					59	S
485	メジロ	76	1	12	25	21	2	22	15	26	8	68	39	333	R
502	ゴジュウカラ	9	14	17	35	12	13	9	3	7	7	11	3	140	R
504	ミソサザイ			1	4					1				6	R
508	コムクドリ							4						4	T
512	カワガラス	1		1		1			1	3	1			8	R
514	トラツグミ	3	1						2					6	R
518	クロツグミ				2	15	18	17			1			53	S
521	シロハラ	16	13	6	1	1			1			1	1	49	W
522	アカハラ	1					2	1						4	W
525	ツグミ	43	27	18	6							6	55	155	W
534	コルリ					1	1							2	T
536	ルリビタキ	4	5	1	4	1	2	4		1		3	4	29	R
540	ジョウビタキ	28	21	5	4	1		1		1	8	35	32	136	W
553	サメビタキ							1						1	T
554	コサメビタキ					6	4	3	1					14	S
558	キビタキ				4	76	74	45	1	2				202	S
561	オオルリ				4	28	22	13						67	S
564	イワヒバリ	5	3	1		1							2	12	W
566	カヤクグリ	49	66	66	3	1						12	43	240	W
569	スズメ		1	5	3	9	5	1	1	3	8	7	5	57	R
573	キセキレイ	5	1	1	15	14	13	25	22	15	16	6	9	142	R
574	ハクセキレイ	5	9	6	9	4	15	2	3	28	25	14	1	175	R
575	セグロセキレイ	5	4	1	9	13	1	4	3	11	19	14	11	104	R
580	ビンズイ							1						1	R
586	アトリ	53	48	84	26							8	28	247	W
587	カワラヒワ	189	98	13	71	57	55	46	32	19	144	156	156	1126	R
588	マヒワ	3	1	2									7	22	W
592	ベニマシコ	16	7	3	3							7	8	44	W
595	オオマシコ	3											2	5	W
599	ウソ	5	3	6	1							2	1	18	W
600	シメ	2	3	14	3							2	1	25	W
602	イカル	3	49	8	12	1	6	1	1	14	8	4	3	137	W
610	ホオジロ	141	136	93	57	52	83	82	33	13	54	77	194	1015	R
617	カシラダカ	236	193	48	7						2	19	389	894	W
618	ミヤマホオジロ	28	11	3	1							2	29	74	W
623	ノジコ					1	1							2	S
624	アオジ	13	9	11	6						2	4	12	57	W
625	クロジ						3							3	W
628	オオジュリン												2	2	W
外1	コジュケイ				2			1						3	R
外21	ガビチョウ	18	11	18	27	18	3	27	19	15	22	22	25	252	R

(7) 月別変化

表 3 のデータを月別の変化が分かりやすいようにグラフに表し、図 4 に示した。

個体数は 10 月～3 月までの秋から冬にかけて多くの数が記録され、春から夏は少ない。季節による差が大きい。

種類数は冬鳥が飛来する冬から夏鳥が渡って来る初夏にかけて多い。7 月から 9 月の夏期は少ない。

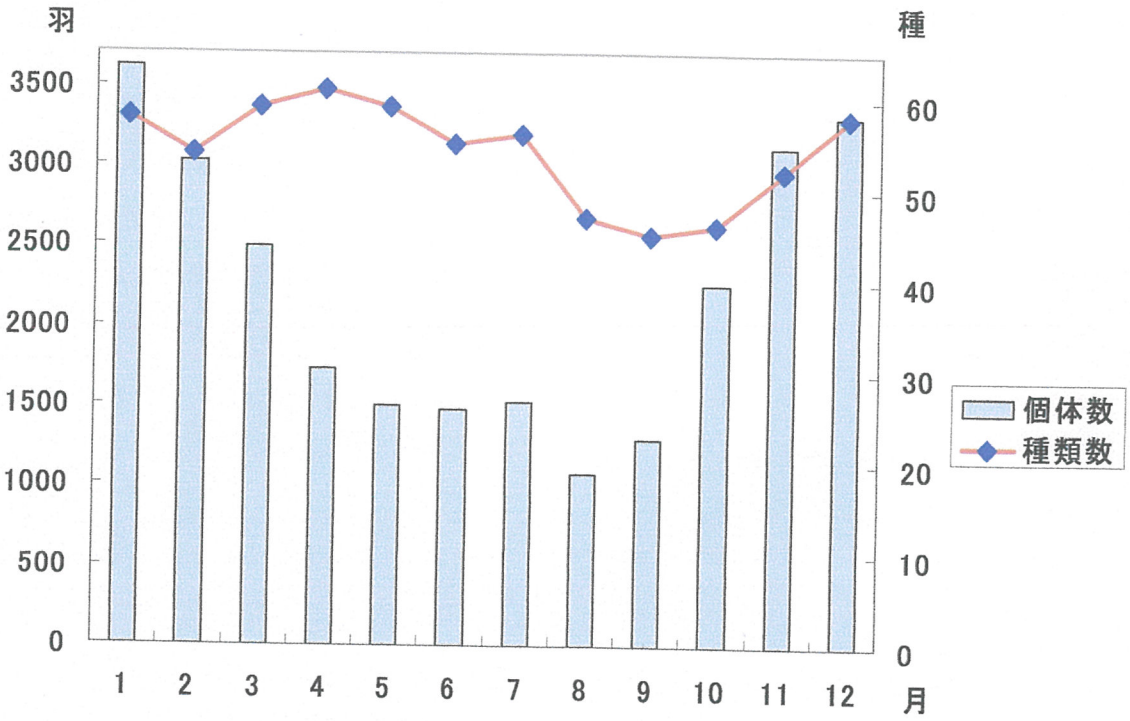


図4 個体数と種類数の月別変化

コラム1



この冊子では毎月 1 回の野鳥調査の時に出会った種だけを集計しています。午前中の調査であり、夜行性の鳥たちとの出会いは少ないことになります。調査地内では、夜間にフクロウの声が聞こえることがよくあります。作成予定の鳥類目録にはフクロウも含めた鳥たちを収録する予定です。

写真は早朝のフクロウです。

(8) 年別の記録

表4 年別の記録

清里湖

	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
	種類数	55	68	64	62	66	69	53	65	69	70	68	108
	個体数	2078	2544	2557	2779	2188	2137	2047	2014	2177	3132	2776	26429
4	ヤマドリ					2							2
5	キジ			2					1				3
24	オシドリ	575	142	637	1131	355	338	169	99	88	712	183	4429
27	ヨシガモ	1											1
28	ヒドリガモ	3	49	94	9	2	33	17	6	21		22	283
29	アメリカヒドリ									2			2
30	マガモ	331	391	435	424	193	338	152	159	26	471	725	3825
32	カルガモ	114	155	12	8	65	91	89	58	42	5	129	993
34	ハシビロガモ											1	1
35	オナガガモ				1				2	7		1	11
38	コガモ	73	7	25	14	36	36	38	29	2	9	45	314
42	ホシハジロ							5		11	29	5	50
46	キンクロハジロ					1	15	26	7			23	81
59	カワアイサ						1			2	5		8
62	カイツブリ	5	9	5	14		4	4	2	5	1	3	61
74	キジバト	8	18	17	17	25	17	1	26	33	32	28	231
78	アオバト								1	1	1	2	5
127	カワウ	24	28	12	23	34	27	69	13	52	85	93	550
144	アオサギ	54	57	59	58	24	33	53	25	42	75	53	533
146	ダイサギ		1						1	1	1	3	7
147	チュウサギ						1						1
148	コサギ			1			1				1	2	5
174	バン				1							1	2
175	オオバン								6	3	3		12
184	ジュウイチ						1						1
185	ホトトギス	1	1	2	1	1	1		3	1			11
187	ツツドリ						1				1		2
188	カッコウ		2	1		4	1				3		11
212	ヤマシギ					1							1
239	クサシギ										1		1
244	イソシギ						1						1
340	ハチクマ										1		1
342	トビ	8	13	1	9	15	23	17	14	21	19	18	167
355	ハイタカ						1						1
356	オオタカ		1		1			4			1		7
357	サシバ	1											1
358	ノスリ	3	1	2		1	3	3	5	1	5	4	28
378	アカショウビン									1			1
383	カワセミ		8	2	1		1	1	3	3	2	5	26
385	ヤマセミ				1	1		1	1		1		5
390	コゲラ	11	63	37	43	53	51	48	63	6	58	59	546
393	アカゲラ	6	37	35	27	49	35	58	44	49	46	51	437
397	アオゲラ	6	8	8	15	9	11	1	13	13	17	18	128
402	チョウゲンボウ		1				1						2
407	ハヤブサ											1	1
412	サンショウクイ	1	3	4	7	7	1	9	12	11	23	14	101
418	サンコウチョウ				1					1			2
420	モズ		3			2	5	4	6	6	1	5	32
427	カケス	1	24	32	27	62	27	56	43	93	39	26	439
429	オナガ					1							1
435	ハシボソガラス	15	25	9	18	5	27	5	7	12	2	12	137
436	ハシブトガラス	4	22	38	21	27	25	35	32	35	35	29	303
438	キクイタダキ							2				2	4

清里湖

	年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
441	コガラ	1	32	2	17	42	35	23	15	14	15	9	232
442	ヤマガラ	23	47	36	4	3	31	49	47	36	31	48	418
443	ヒガラ		45	27	15	23	33	34	27	13	8	7	232
445	シジュウカラ	27	149	173	166	199	153	219	195	23	246	266	1996
452	ヒバリ	1				1					1		3
457	ツバメ	9	9	2	7	12	1	1		5	21	7	83
461	イワツバメ	12	193	15	77	8	8	59	14	18	16	98	1229
463	ヒヨドリ	68	195	93	113	142	157	172	158	18	174	153	1605
464	ウグイス	14	36	3	2	19	23	12	19	3	29	37	269
465	ヤブサメ			1	1								2
466	エナガ	14	15	45	32	34	43	68	47	78	75	76	617
477	メボソムシクイ		1	1			1						3
479	エゾムシクイ		2				1		1	3			7
480	センダイムシクイ	3	4	2	2	8	1	7	6	4	6	7	59
485	メジロ	1	231	6	2	9	8	5	6	11	38	16	333
502	ゴジュウカラ		15	6	19	16	16	13	9	1	21	15	140
504	ミソサザイ			1		1		1		2		1	6
508	コムクドリ		4										4
512	カワガラス		2		1			2		3			8
514	トラツグミ		2		1	1	1				1		6
518	クロツグミ	4	5	5	6	5	1	11	6	5	3	2	53
521	シロハラ	1	7	5	5	6	2	5	4	3	6	5	49
522	アカハラ			1						2	1		4
525	ツグミ	4	1	14	4	16	7	17	13	4	17	13	155
534	コルリ			1								1	2
536	ルリビタキ			4		2		4	3	1	1	5	29
540	ジョウビタキ	7	15	9	1	17	8	11	18	12	17	12	136
553	サメビタキ					1							1
554	コサメビタキ		3	1	1			1	2	3	1	2	14
558	キビタキ	3	12	13	15	8	18	15	21	31	36	3	202
561	オオルリ	2	9	12	4	5	8	7	4	4	8	4	67
564	イワヒバリ	6	2		1	2					1		12
566	カヤクグリ	57	31	22	28	33	11	13	11	7	15	12	240
569	スズメ	8	9	3	3	2		1	2	9	12	8	57
573	キセキレイ	14	5	13	6	14	12	11	14	26	8	19	142
574	ハクセキレイ	6	24	18	12	9	15	15	22	12	24	18	175
575	セグロセキレイ	8	11	11	6	14	12	8	5	11	5	13	104
580	ビンズイ		1										1
586	アトリ	2	4	3		28	46	1	77	32	44	1	247
587	カワラヒワ	12	18	76	45	14	67	76	5	154	15	158	1126
588	マヒワ	1		1	2	1	2	1	1	7	5	1	22
592	ベニマシコ	3	2			8	8	3	6	4	3	7	44
595	オオマシコ						1				4		5
599	ウソ		4	2	6	1	2		2			1	18
600	シメ		14	2	1		1	1	2	1	3		25
602	イカル	5	16	8	5	4	3	9	52	14	16	5	137
610	ホオジロ	141	72	12	64	146	75	82	8	93	71	71	1015
617	カシラダカ	92	7	15	66	68	41	162	173	89	136	45	894
618	ミヤマホオジロ	1	12	3	3	8	9	9	14			6	74
623	ノジコ									2			2
624	アオジ	27	2	6	6	5	1	6	3			1	57
625	クロジ					3							3
628	オオジュリン		2										2
外1	コジュケイ	3											3
外21	ガビチョウ	19	16	9	23	41	25	19	24	18	25	33	252

(9)　経年変化

表４のデータを年ごとの変化が分かりやすいようにグラフに表し、図５に示した。個体数は年ごとの差が大きい。これはカモたちの大きな群れが出会い、記録されたか、どうかによる差である。特に、オシドリやマガモは大きな群れで行動する場面が見られた。

種類数は年による差は少ない。

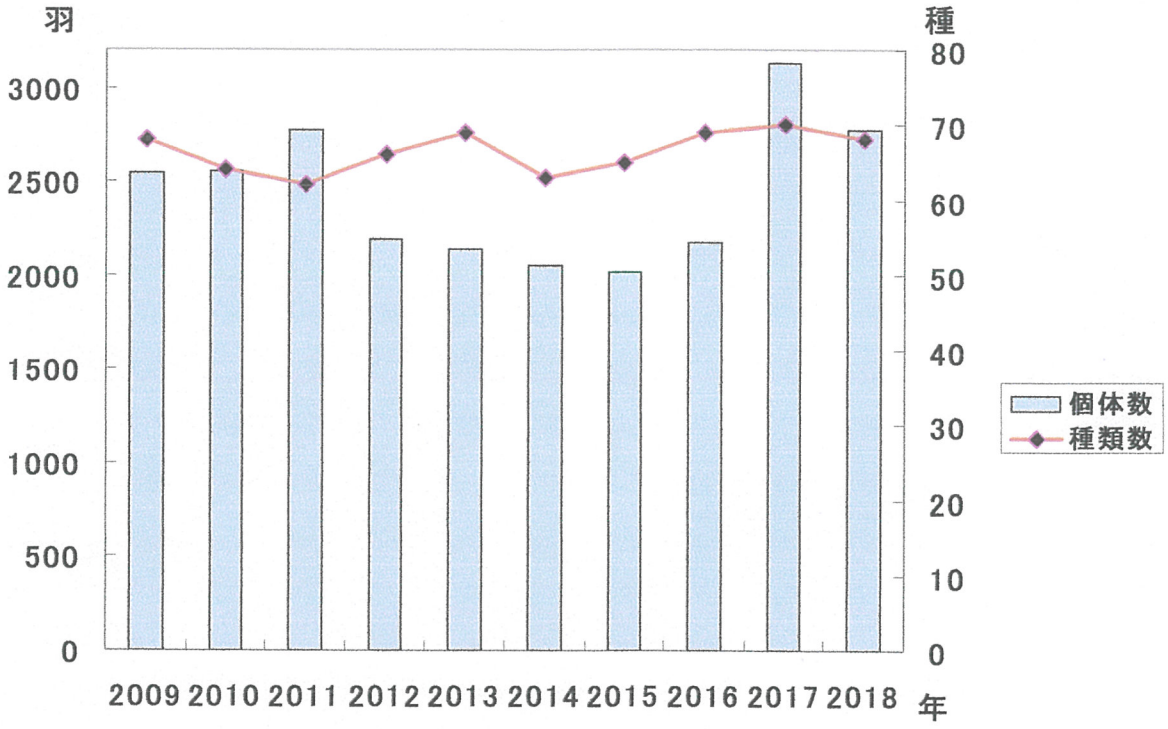
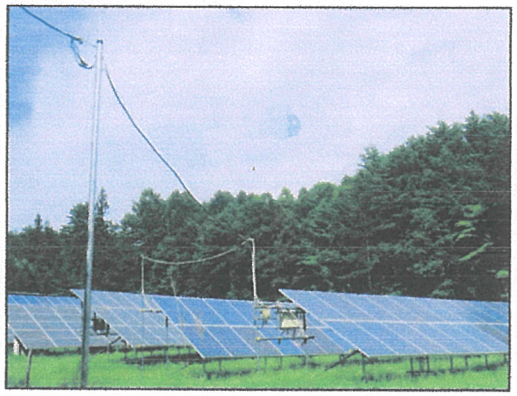


図5 個体数と種類数の経年変化

コラム2



調査地がある北杜市には、今、２つの環境問題があります。ソーラーパネル設置の乱立と、高速道路の建設計画です。豊かな自然環境にあこがれて移住して来た人も多く、反対運動が起っています。野鳥たちの生息にとっても、プラスにはなりません。Today Birds , Tommrow Men 鳥たちが生きられない環境は人にとっても良い環境ではありません。

(10) 山梨県レッドデータブックの鳥類

2地点で記録された野鳥は次の15種類である。サンショウクイ、ミヤマホオジロは比較的多く記録されている。8種は1回だけの観察である。両方の調査地で記録されたのは4種であった。これは調査地の環境が異なり、生息条件の違いによるものである。

① アカショウビン
ブッポウソウ目カワセミ科　絶滅危惧ⅠB類　清里湖1回1羽

② ハチクマ
タカ目タカ科　絶滅危惧Ⅱ類　清里湖1回1羽

③ ハイタカ
タカ目タカ科　絶滅危惧Ⅱ類　清里湖1回1羽

④ ハヤブサ
ハヤブサ目ハヤブサ科　絶滅危惧Ⅱ類　清里湖1回1羽

⑤ オオタカ
タカ目タカ科　準絶滅危惧　清里湖7回7羽

⑥ サシバ
タカ目タカ科　準絶滅危惧　清里湖1回1羽

⑦ ヤマセミ
ブッポウソウ目カワセミ科　準絶滅危惧　清里湖1回1羽

⑧ サンショウクイ
スズメ目サンショウクイ科　準絶滅危惧　清里湖29回46羽　井富25回55羽

⑨ トラツグミ
スズメ目ヒタキ科　準絶滅危惧　清里湖2回3羽　井富3回3羽

⑩ ミヤマホオジロ
スズメ目ホオジロ科　準絶滅危惧　清里湖10回24羽　井富15回50羽

⑪ オオマシコ
スズメ目アトリ科　情報不足　清里湖1回2羽　井富2回3羽

⑫ ヤマシギ
チドリ目シギ科　情報不足　井富1回1羽

⑬ クロジ
スズメ目ホオジロ科　情報不足　井富1回3羽

⑭サンコウチョウ
スズメ目カササギヒタキ科　準絶滅危惧　井富2回2羽

⑮ ノジコ
スズメ目ホオジロ科　準絶滅危惧　井富2回2羽